

(2) 環境

「環境」の観点から、1)自然・景観・文化資源、2)小豆島の施設立地状況に関する基礎情報を分析した。小豆島ふるさと村周辺エリアの分析図を、以下図に示す。

小豆島の環境は、豊かな自然を活かした多様なコンテンツがコンパクトにまとまり、各港を中心に分布している。

小豆島ふるさと村周辺地域の地形は山地・丘陵地が中心で高低差が大きく、平地が少ないという点が特徴的である。島内最高峰の星が城山は標高 817m と、瀬戸内海の島で最も海拔が高い場所である。内海湾に沿って主要道路網（国道 436 号、県道 28 号線）が整備されており、路線バスが運行している。道路沿いには小豆島町役場、小豆島中学校、星城小学校、苗羽小学校等の公共施設が立地するとともに、特徴的な自然環境や文化資源が集積している。また、道の駅小豆島オリーブ公園、寒霞溪、醬の郷、二十四の瞳映画村などの観光施設が立地し、小豆島観光のモデルコース（出典：小豆島観光協会 HP）として人気を集めている。



図 2.2-17 周辺地域の分析図

1)小豆島の自然・景観・文化資源

- ・瀬戸内海国立公園に指定されており、豊かな自然環境が形成する離島景観が観光資源になっている
- ・小豆島町の土地利用状況は山林が 49.39 k m²で、町全体の 51.7%を占める
- ・日本三大溪谷美の一つである名勝「寒霞溪」をはじめ、棚田百選の「中山千枚田」など貴重な地域資源が残っている
- ・国指定を含む多くの文化遺産があるが、少子高齢化を背景に担い手や後継者不足が深刻化している

【自然】

本地域の有人島は、令和2年現在、小豆島（土庄町・小豆島町、25,881人、153.27km²）、沖之島（土庄町、58人、0.18km²）、豊島（土庄町、768人、14.50km²）、小豊島（土庄町、9人、1.10km²）の計4島あり、人口26,716人、面積169.05km²で、行政区域としては土庄町及び小豆島町の2町に属している。また、本地域は温暖、小雨の典型的な瀬戸内式気候であり、冬季の積雪はほとんど見られない。

出典：香川県離島振興計画

表 2.2-6 土地利用の状況

■土地利用の状況（令和3年4月1日現在）

（単位：km²、%）

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	
					面積	構成比
田	1.62	1.60	1.60	1.59	1.58	1.7%
畑	7.56	7.52	7.52	7.49	7.43	7.8%
宅地	3.62	3.62	3.63	3.63	3.66	3.8%
池沼	0.33	0.33	0.33	0.33	0.33	0.3%
山林	49.43	49.43	49.38	49.40	49.39	51.7%
雑種他	2.30	2.31	2.32	2.29	2.36	2.5%
その他	30.73	30.77	30.81	30.86	30.84	32.3%
計	95.59	95.59	95.59	95.59	95.59	100.0%

【税務課】(概要調書等報告書 第2表)

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

表 2.2-7 気象概況

■気象概況（令和2年）

（単位：℃、mm、m/s）

月	区分	気温			降水量	平均風速
		平均	最高	最低		
令和2年		16.9	37.8	-0.1	1,046.0	2.0
1月		8.4	16.8	1.6	53.0	2.2
2月		7.9	17.8	-0.1	26.5	2.2
3月		10.6	21.5	1.7	89.5	1.9
4月		12.7	23.0	4.4	135.5	2.3
5月		19.4	28.5	10.9	60.5	1.9
6月		23.2	31.2	16.6	137.5	1.6
7月		25.0	33.8	19.8	250.5	1.8
8月		29.0	36.8	23.2	3.5	1.7
9月		25.1	37.8	16.3	104.0	1.9
10月		18.4	27.1	9.1	147.5	1.9
11月		14.4	25.3	6.7	26.5	1.9
12月		8.4	16.5	1.1	11.5	2.5

【気象庁各種データ】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

【上位関連計画における方針】

美しい山と海に囲まれた豊かな自然環境は、大きな魅力であり、令和6年には瀬戸内海国立公園指定 90 周年を迎える。歴史とともに生まれ、豊かな自然と島人の営みが育んだ貴重な宝物として後世に残していくため、調査・研究、情報発信等を進めていく。名勝寒霞溪を有する小豆島の森林資源の確保と国土保全を図るため、植栽、間伐、育林事業をはじめ、森林害虫の予防、被害木の駆除などを継続的に実施する。また、緑化推進活動、海岸清掃等への参加の促進、子どもたちへの環境教育の充実などを通じて、住民の環境美化意識の向上を図り、ごみの排出抑制及び資源の再利用を推進する。

出典：香川県離島振興計画

【文化資産】

小豆島(小豆島町)において、点在する有形無形の文化財や自然、景観などの「地域の宝物」は、我々の先祖から受け継いできた大切なものであり、町の歴史や文化の魅力を知る上で欠くことのできない共有の文化遺産である。「地域の宝物」を積極的に保存・活用し、確実に子孫へと継承する責務がある。令和元年5月には、岡山県笠岡市、丸亀市、土庄町及び小豆島町で構成する「せとうち備講諸島の石の物語」が日本遺産に認定されたことから、島々の活性化に向けて、日本遺産ブランドを活かした取組みを推進している。特に、小豆島の石の文化を内外に発信することで住民の地域の文化への自信と誇りを育むとともに、小豆島の歴史を物語る観光資源として活用に取り組んでいる。また、昔ながらの日本の原風景が残る中山地区では、中山千枚田の稲作文化を中心に、約300年の歴史を誇る農村歌舞伎や虫送り、秋には五穀豊穰を祝い、町内各地区で秋祭りが行われるなど、数々の伝統行事が今なお続けられているが、現在、町内の人口減少や少子高齢化により、地域に担い手や後継者不足が深刻化し、これらの継承が困難な状況になりつつある。

出典：香川県離島振興計画

2) 小豆島の施設立地状況

- ・島内の宿泊施設は約 80 件あったが、コロナ禍を機に廃業や稼働率を下げて営業する施設が増加している※
- ・伝統産業の体験・見学施設、固有の環境や文化が形成する離島景観が観光コンテンツとして人気を集めている
- ・港を中心に飲食施設や観光施設が分布しているが、飲食施設等の閉店時間が早く、観光客が夜間に利用できる店舗や施設が少ない

※ヒアリング調査結果より

【施設分布状況】

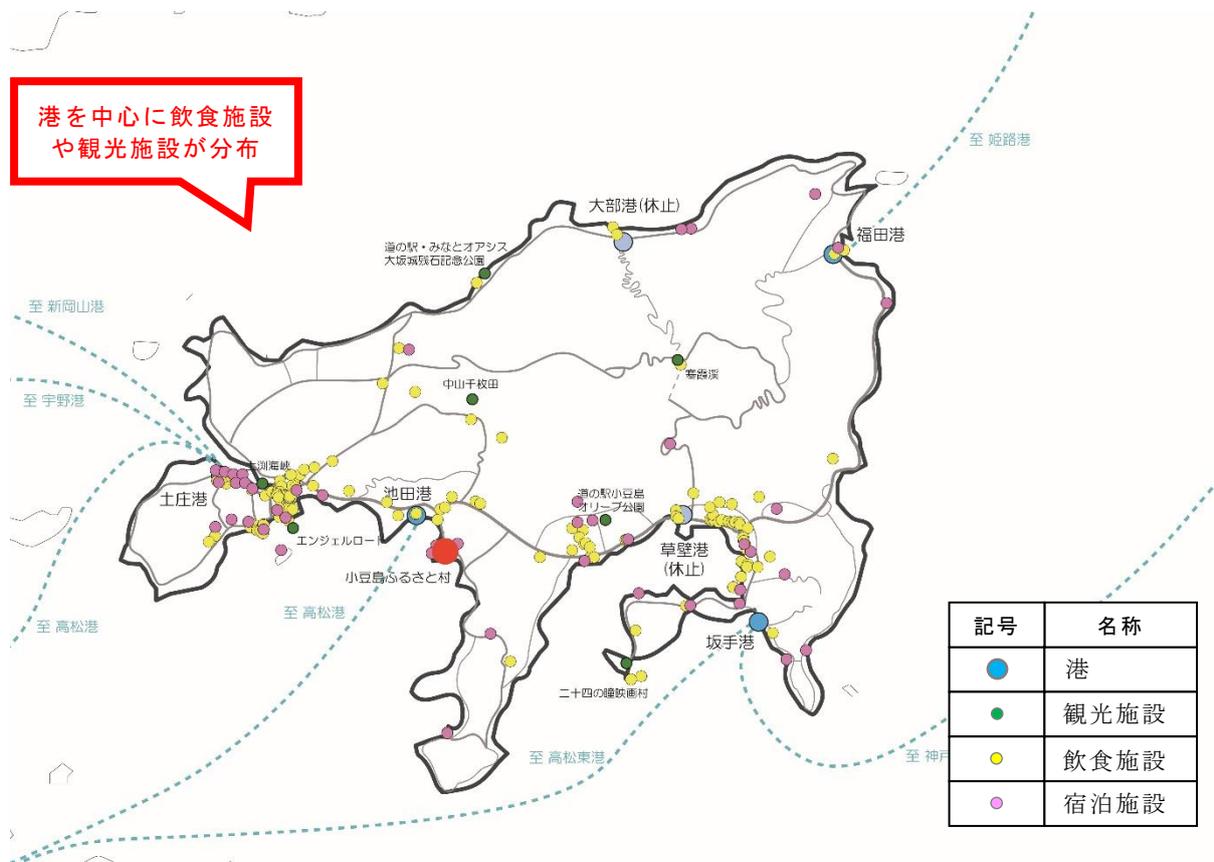
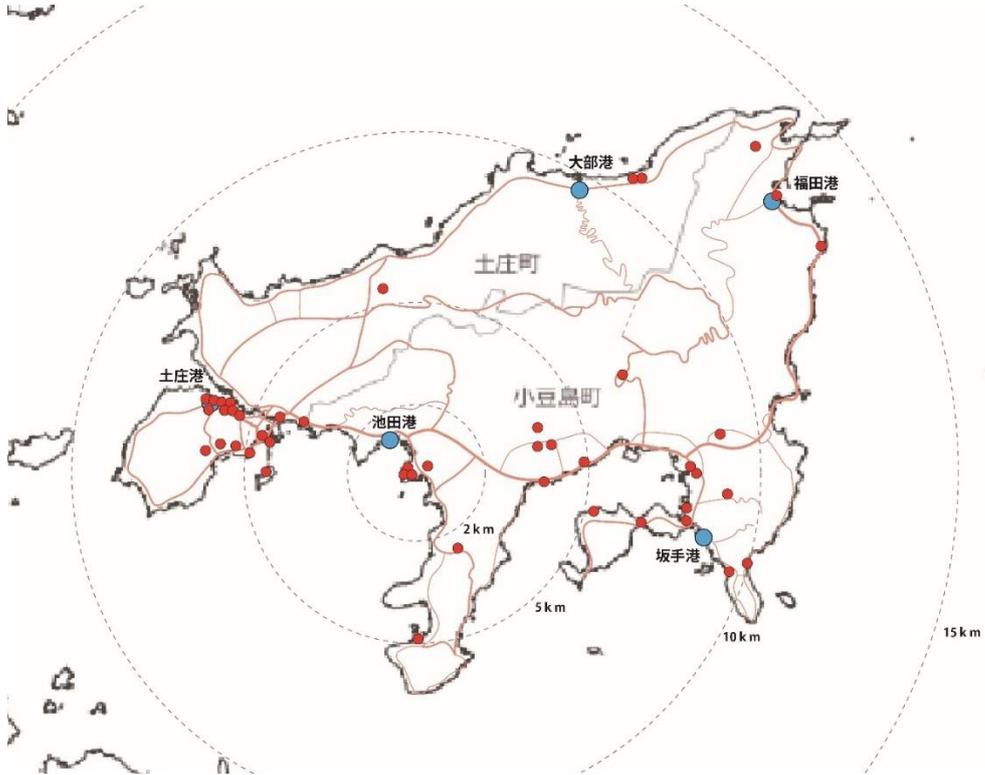


図 2.2-18 小豆島内の施設分布

【宿泊施設】

表 2.2-8 宿泊施設の形態別分布数

	ホテル・旅館	一棟貸し	民宿・ゲストハウス	ロジック・コテージ	グランピング	キャンプ	計
小豆島町	12	6	15	5	1	5	44
土庄町	18	7	10	5	1	3	44
島内	31	12	25	10	2	8	88



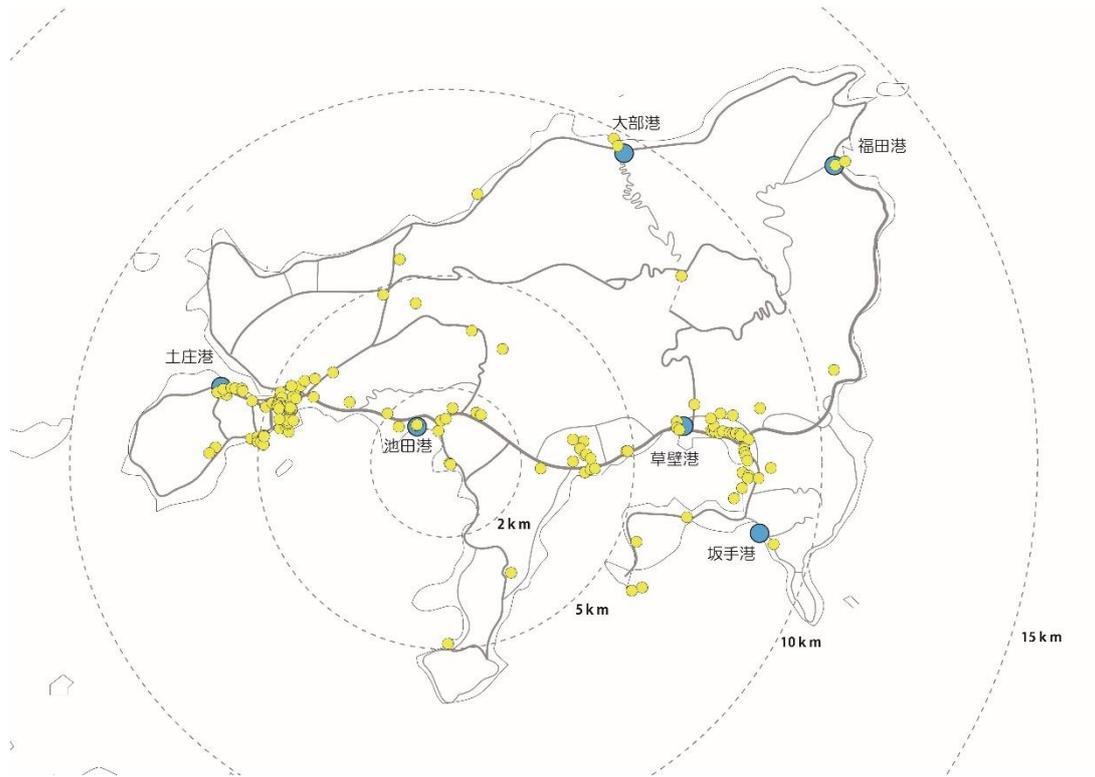
出典：小豆島の宿泊施設一覧／小豆島観光協会をもとに作成

図 2.2-19 宿泊施設の分布状況

【飲食施設】

表 2.2-9 飲食施設の形態別分布状況

	レストラン・食事処	カフェ・軽食	テイクアウト	計
小豆島町	16	19	4	39
土庄町	13	3	0	16
島内	29	22	4	55



※出典：小豆島グルメめぐり（食事処マップ）／土庄町役場商工観光課・小豆島役場商工観光課をもとに作成

図 2.2-20 飲食施設の分布状況

【観光コンテンツ】

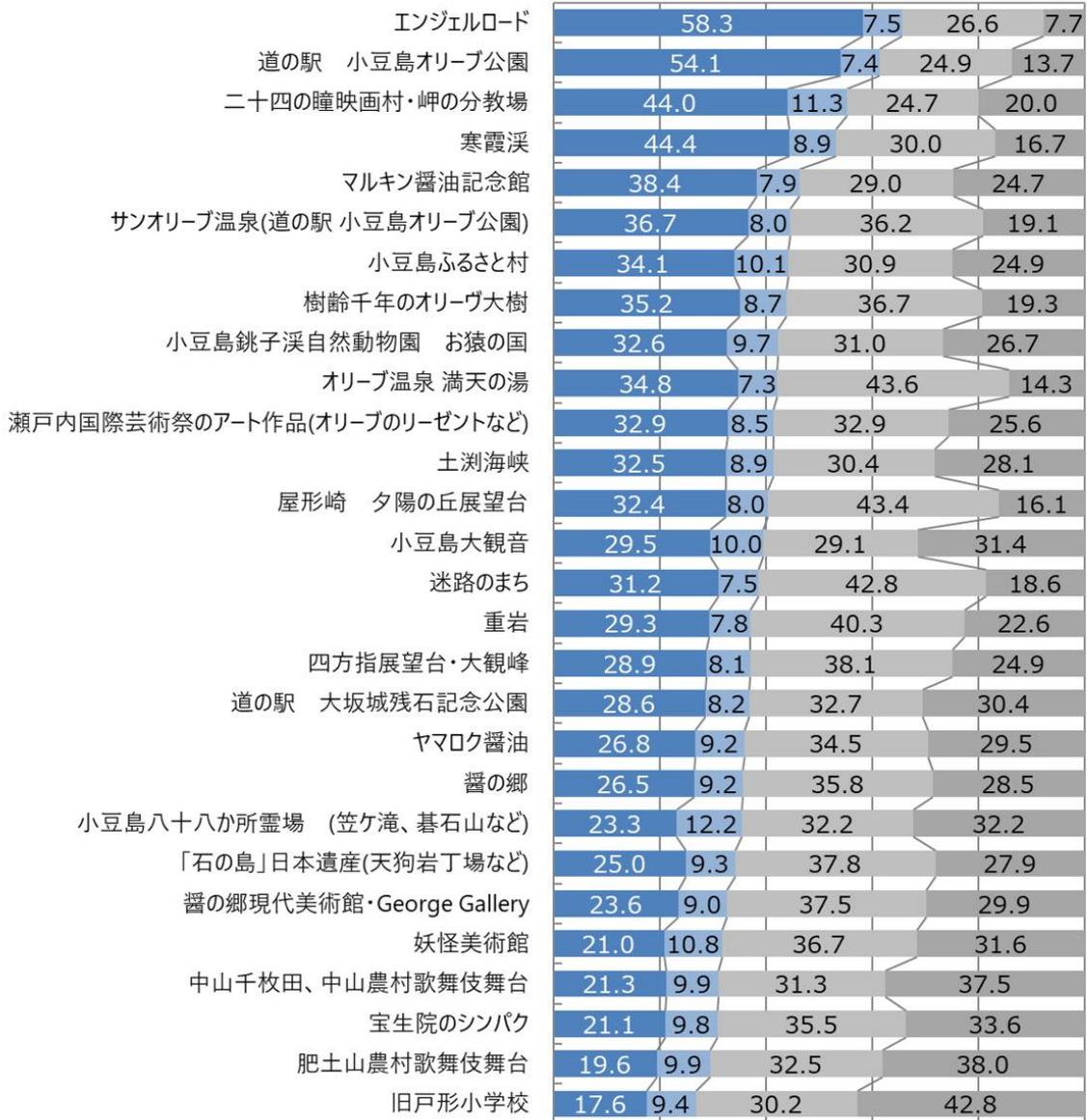
表 2.2-10 観光コンテンツの形態別分布数

	マリナクティビティ	観光施設	地場産業体験	自然	美術館・博物館	道の駅	温泉	散策	その他	計
小豆島町	7	2	12	24	8	2	1	1	13	70
土庄町	3	0	3	6	4	1	0	2	8	27
島内	10	2	15	31	12	3	1	3	22	99

伝統産業の体験・見学施設や固有の環境や文化が形成した観光地が人気

【Q9】認知度
全体(n=1,045)

- 知っていて、行ってみたい (もしくは既に行った)
- 知っているが、行ってみたいとは思わない
- 知らないが、行ってみたい (もしくは既に行った)
- 知らないし、行ってみたいとは思わない



出典：小豆島観光協会 GAP 調査

図 2.2-21 観光コンテンツの認知度

(3) 産業

「産業」の観点から、1)小豆島の特産品、2)小豆島の就業者に関する基礎情報を整理した。

オリーブを筆頭に、島の気候を活かした農産物や、醤油・佃煮・そうめん等の伝統的な食品産業が盛んである。

1)小豆島の特産品

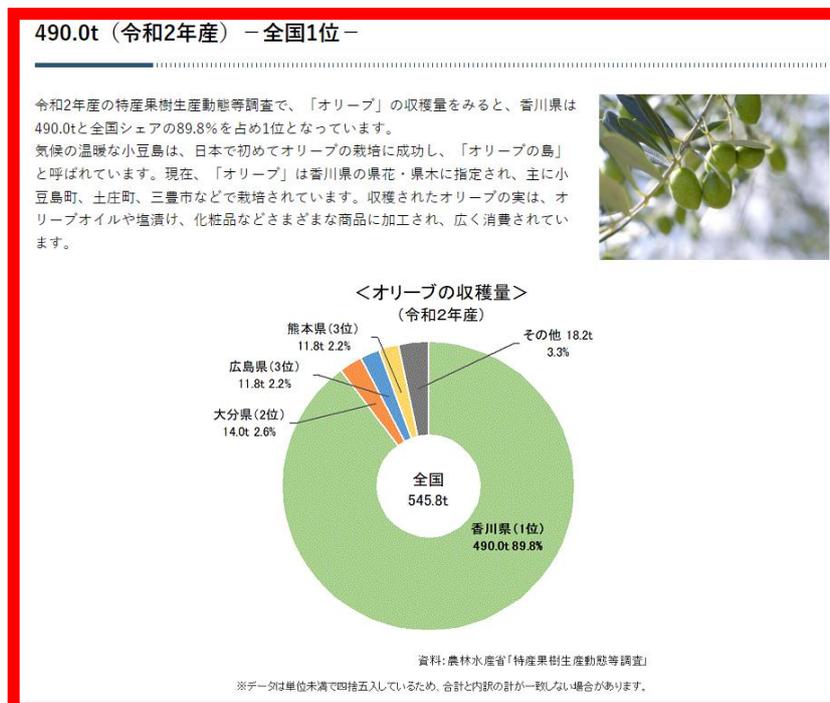
- ・オリーブの収穫量は国内第1位のシェアを維持している
- ・小豆島町の産業生産額は、二次産業が約半数を占め、全国や香川県と比較して二次産業の割合が高い
- ・二次産業の生産額の内 58.1%がオリーブ加工品、醤油、佃煮、そうめんなどの食料品である

【上位計画における方針】

【産業】

町の活性化に欠かせない産業の活性化を図るため、町の基幹産業とも言える醤油・佃煮・素麺について、歴史ある伝統産業の更なる発展を目指すため、香川県産業技術センター発酵食品研究所による発酵技術等の研究、大学との域学連携などに対する活動を支援する。また、地場産業の担い手の人材育成は、健全で持続的な事業活動には欠かすことができない。島内企業の若手をはじめとする人材が地場産業の抱える課題解決に向けて、仮説・検討・実践できる場を提供し、柔軟な発想を持つ若手人材が産業間の垣根を越えて主体的に取り組む産業振興につながる活動を支援する。

出典：香川県離島振興計画



出典：香川県 HP うどん県統計情報コーナー（「オリーブ」の収穫量）

図 2.2-22 オリーブの収穫量に関する記載

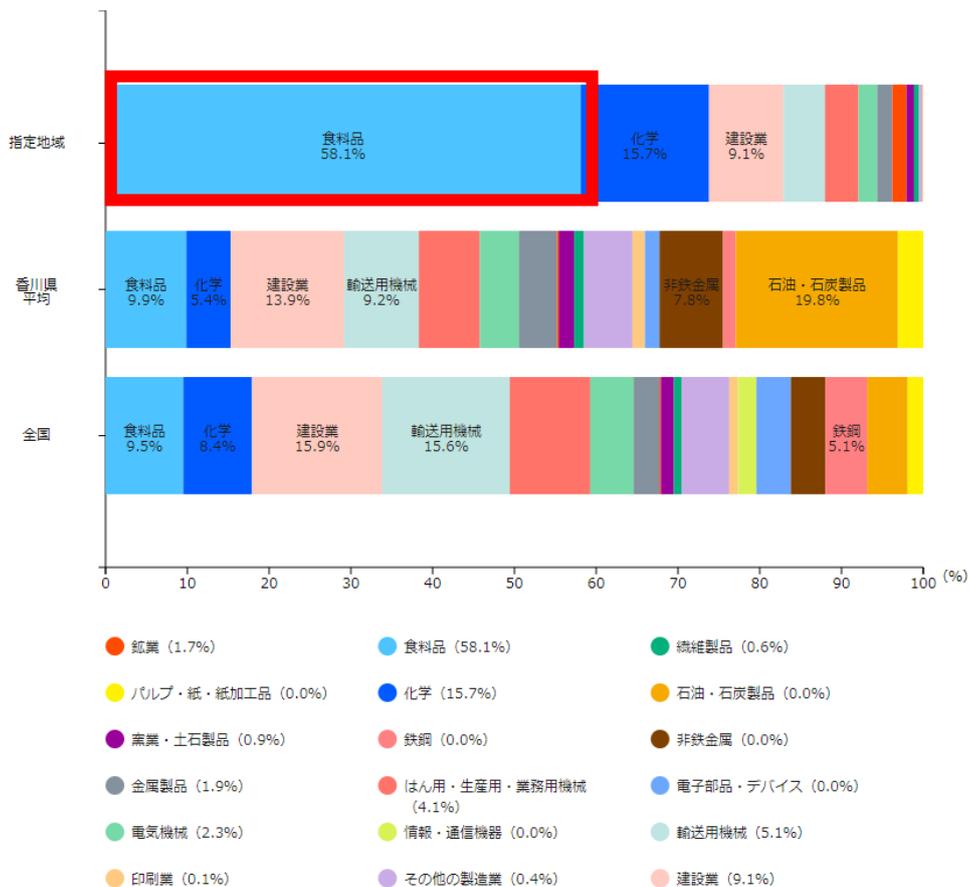
【地域産業構成比】



出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R6年2月29日に利用）

図 2.2-23 地域内産業の構成割合（生産額、2018年）

【二次産業構成比】



出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R6年2月29日に利用）

図 2.2-24 二次産業の構成割合

2)小豆島の就業者

- ・小豆島の就業者数の構成割合は、第3次産業が65.1%で最も多い
- ・産業別就業人口（15歳以上）については、第二次産業では製造業、第三次産業ではサービス業の占める割合が大きい

【就業者】

表 2.2-11 産業分類別就業者率

【産業分類別就業者率】

島名	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能
小豆島	5.8%	28.7%	65.1%	0.4%
沖之島	62.2%	13.5%	24.3%	—
豊島	13.8%	14.2%	72.0%	—

出典：香川県離島振興計画

表 2.2-12 産業別就業人口・動向

■産業別就業人口(15歳以上)

【国勢調査】

産業別	就業人口(人)		構成比(%)		平成22年国勢調査に対する 平成27年国勢調査増減		
	平成27年	平成22年	平成27年	平成22年	就業人口(人)	構成比(%)	
第一次産業	農業	260	268	3.91	3.73	△ 8	0.18
	林業	2	0	0.03	0.00	2	0.03
	漁業	102	140	1.53	1.95	△ 38	△ 0.41
	計	364	408	5.47	5.67	△ 44	△ 0.20
第二次産業	鉱業	26	27	0.39	0.38	△ 1	0.02
	建設業	454	510	6.82	7.09	△ 56	△ 0.27
	製造業	1,710	1,958	25.70	27.23	△ 248	△ 1.53
	計	2,190	2,495	32.92	34.70	△ 305	△ 1.78
第三次産業	電気・ガス・水道業	44	50	0.66	0.70	△ 6	△ 0.03
	運輸・通信業	392	477	5.89	6.63	△ 85	△ 0.74
	卸・小売業	943	1,092	14.17	15.19	△ 149	△ 1.01
	金融・保険業	62	80	0.93	1.11	△ 18	△ 0.18
	不動産業	16	33	0.24	0.46	△ 17	△ 0.22
	サービス業	2,271	2,261	34.13	31.44	10	2.69
	公務	341	280	5.13	3.89	61	1.23
計	4,069	4,273	61.16	59.42	△ 204	1.74	
分類不能	30	15	0.45	0.21	15	0.24	
総計	6,653	7,191	100.00	100.00	△ 538	-	

■産業別人口の動向(各年10月1日現在)

(単位:人)

区分	昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
第一次産業就業人口	2,324	1,538	1,197	1,152	878	783	584	500	408	364
第二次産業就業人口	4,140	4,128	4,259	4,108	3,903	3,956	3,325	2,821	2,495	2,190
第三次産業就業人口	5,201	5,323	5,304	5,127	5,018	5,064	4,551	4,511	4,273	4,069
総数	11,665	10,989	10,760	10,387	9,799	9,803	8,460	7,832	7,176	6,623

【国勢調査】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

(4) 移動

「移動」の観点から、1)小豆島へのアクセス、2)小豆島内の移動手段に関する基礎情報を整理した。

フェリーの利用は土庄港が最も多く、路線バスは、日常生活・観光客の島内における貴重な移動手段となっている。

1)小豆島へのアクセス

- ・小豆島にはフェリーでのみアクセス可能であり、島内の4つの港のうち土庄港の乗降客数が最も多い(※)
- ・フェリー航路別にみると、土庄-高松航路が最も多く、次いで池田-高松航路、土庄-岡山航路の順となっている
- ・バスのフェリー乗船数は前年、コロナ前と比較して顕著に減少しており、マイカーやレンタカーによる個人旅行の割合が増加していると考えられる

【フェリー】

- ・フェリー就航状況

表 2.2-13 航路の現況

【航路の現況】

島名	航路区間	航路距離・所要時間(片道)	船種	運航回数
小豆島	高松～土庄	22km・60分	フェリー	15便/日
		22km・35分	高速艇	16便/日
	岡山～土庄	23.6km・70分	フェリー	13便/日
	宇野～豊島～土庄	26km・90分	フェリー	4.0便/日
		26km・50分	旅客船	4.5便/日
	小豊島～土庄	8km・25分	貸客船	1便/日
	日生～大部	21km・60分	フェリー	4便/日
	高松～池田	22km・60分	フェリー	8便/日
	姫路～福田	41km・100分	フェリー	7便/日
神戸～坂手	93.6km・180分	フェリー	3便/日	
高松～坂手	29.0km・80分	フェリー	3便/日	

※草壁港、大部港は休止中

出典：香川県離島振興計画（令和5年度～令和14年度）

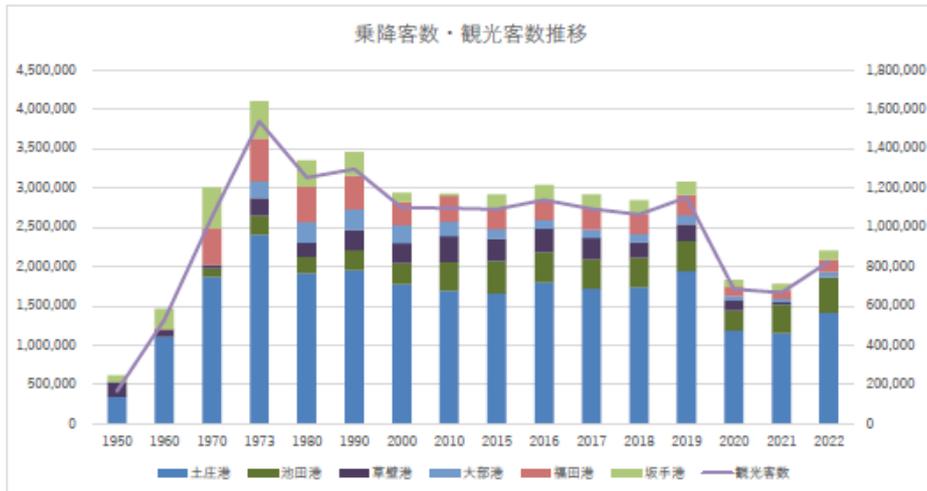
・各港の乗降客数

表 2.2-14 乗降客数の推移

2022年の推定観光客数は2021年と比べ24%増加したが、コロナ前と比較するとまだ75%程度となっている。
小豆島の観光客数は1950年に統計を取り始めてから1973年のピークに向けて増加したのち下落に転じ、2000年頃から横ばい傾向となっている。瀬戸内国際芸術祭が小豆島でも開かれるようになった2013年以降は開催年に客数が増加し、翌2年間はそれを下回るというパターンになっている。

	土庄港	池田港	草壁港	大部港	福田港	坂手港	観光客数
1950	346,760	0	189,668	0	0	79,545	167,000
1960	1,109,363	0	94,208	0	6,919	254,775	531,000
1970	1,874,451	102,708	42,229	5,478	462,667	518,528	1,052,000
1973	2,407,642	245,797	222,868	211,211	543,673	477,159	1,540,000
1980	1,916,566	212,412	179,202	261,465	447,454	335,413	1,254,000
1990	1,954,117	256,815	256,322	261,197	430,010	304,054	1,297,000
2000	1,778,332	265,893	255,911	231,508	291,319	116,629	1,101,000
2010	1,696,686	362,989	330,482	182,856	327,541	31,619	1,098,000
2015	1,660,577	410,819	287,326	120,205	262,691	176,902	1,093,000
2016	1,798,433	387,599	298,246	111,025	258,341	189,180	1,140,000
2017	1,720,659	377,143	270,760	106,727	268,787	177,602	1,094,000
2018	1,741,605	378,421	193,929	104,429	255,500	173,568	1,066,000
2019	1,946,525	381,741	213,959	116,791	253,298	167,861	1,153,000
2020	1,184,909	262,170	127,990	53,277	118,991	88,499	687,000
2021	1,154,441	362,717	30,133	45,898	106,387	86,320	668,000
2022	1,417,058	450,441	0	64,968	156,886	120,854	827,000

©小豆島観光協会 2023



出典：小豆島地域公共交通計画参考資料

図 2.2-25 乗降客数の推移

表 2.2-15 乗降客数の推移

■各港別乗降客数の推移(令和3年4月1日現在)

(単位:人)

区分		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
坂手港	乗客	68,459	96,415	87,167	88,730	99,898	88,759	87,652	83,347	45,114
	降客	67,511	92,595	86,908	88,172	89,282	88,843	85,916	84,380	43,385
草壁港	乗客	161,578	178,195	157,532	147,983	153,664	140,538	101,550	110,217	65,009
	降客	152,029	167,237	146,098	139,343	144,582	130,222	92,379	103,742	62,981
福田港	乗客	131,202	125,649	125,157	136,564	134,012	138,682	127,272	125,970	60,774
	降客	136,123	125,002	120,802	126,127	124,329	130,105	128,228	127,328	58,217
池田港	乗客	187,821	180,175	173,536	204,571	193,824	187,619	187,604	190,318	130,133
	降客	180,033	179,656	181,312	206,248	193,775	189,524	190,817	191,423	132,037
計	乗客	549,060	580,434	543,392	577,848	581,398	555,598	504,078	509,852	301,030
	降客	535,696	564,490	535,120	559,890	551,968	538,694	497,340	506,873	296,620

【小豆島観光協会】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

表 2.2-16 各航路の利用者数

コロナ前の2019年との比較でみると、坂手-高松、土庄-宇野が85%前後、土庄-高松、池田-高松（休止中の草壁-高松含む）が75%前後、その他の便は5～6割台となっており、航路によって回復に差が出ている。データの残っている2001年以降で方面別に乗降客の推移を見てみると、徐々に高松方面のシェアが伸び、逆に関西・岡山方面のシェアが減少していたが、2022年にはわずかながら高松方面のシェアが減少している。これは生活路線でもある高松航路と比較して観光路線の性格が強い本州側の航路の方が回復割合が高いことが理由と考えられる。
 ※坂手-高松東便については坂手-神戸便と一緒に集計されている年度もあるため、一部は推計。

	土庄-高松	池田-高松	草壁-高松	坂手-高松	土庄-岡山	土庄-宇野	大部-日生	福田-姫路	坂手-神戸
2001	1,392,871	251,494	280,042	6,493	314,164	84,419	233,794	266,166	113,079
2005	1,312,703	370,282	346,969	1,286	321,785	70,387	205,095	326,065	106,033
2010	1,254,785	362,989	330,482	0	349,120	92,781	182,856	327,541	31,619
2015	1,273,907	410,819	287,326	35,380	322,382	64,288	120,205	262,691	141,522
2016	1,342,935	387,599	298,246	37,836	335,128	99,983	111,025	258,341	151,344
2017	1,329,124	377,143	270,760	35,233	317,226	74,309	106,727	268,787	142,369
2018	1,349,678	378,421	193,929	33,949	313,337	78,581	104,429	255,500	139,619
2019	1,499,301	381,741	213,959	34,515	328,100	98,907	116,791	253,298	132,651
2020	950,883	262,170	127,990	22,385	178,035	55,991	53,277	118,991	66,114
2021	941,528	362,717	30,133	23,706	154,739	58,174	45,898	106,387	62,614
2022	1,112,571	450,441	0	29,815	209,873	85,603	64,968	156,886	91,039

©小豆島観光協会 2023

出典：2022年小豆島各港別乗降客等調査表

【上位計画における方針】

小豆島（土庄町）には、土庄港を拠点として、高松～土庄、岡山～土庄、宇野～豊島～土庄、小豊島～土庄を結ぶ航路があり、小豆島の玄関口として土庄港（オリーブポートとのしょう）が機能している。また、同町の大部港からは、日生～大部航路があり、京阪神方面への移動に利用されている。

小豆島（小豆島町）の航路については、高松～池田、姫路～福田を結ぶ航路があり、また、平成23年には、16年ぶりに運航が再開された神戸～坂手～高松を結ぶ航路がある。

また、島内の主要な公共交通機関である路線バスについては、現代の車社会により、利用者数が減少している状況にあるものの、高校生や高齢者などのいわゆる交通弱者の重要な移動手段として、維持、確保する必要がある。

出典：香川県離島振興計画

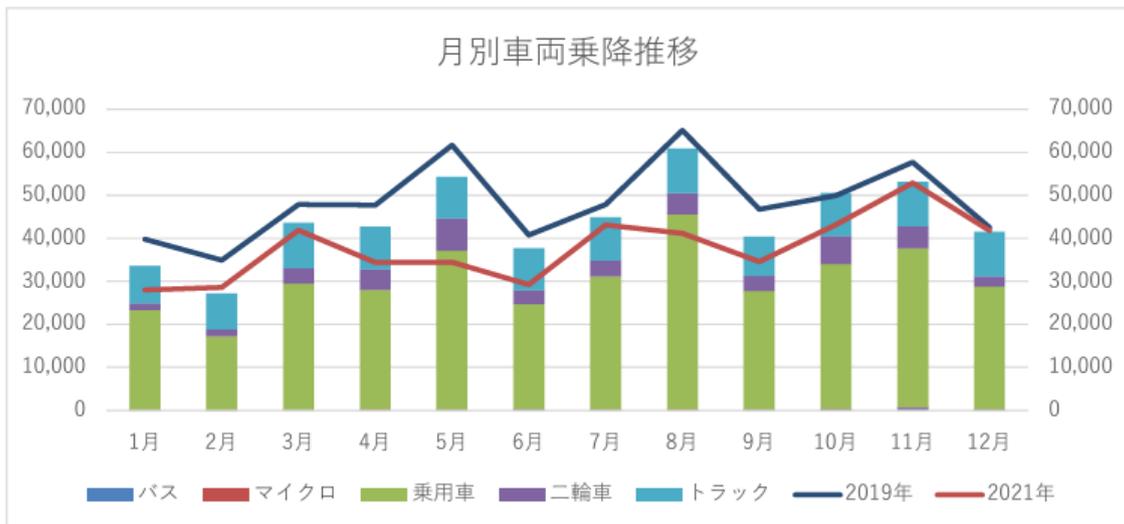
表 2.2-17 月別車両乗降数

2021年と比べるとバス37%増、マイクロバス69%増と大幅増となり、乗用車、二輪車も20%前後増えているが、コロナ禍前の2019年と比較するとバスは80%減と顕著な減少をみせている。ただ、乗用車については10%減まで回復していて、旅行形態が団体旅行から乗用車を利用した家族・友人との旅行に大きくシフトしていることがわかる。

	バス	マイクロ	乗用車	二輪車	トラック	合計	2019年	2021年
1月	52	78	23,189	1,630	8,626	33,575	39,776	27,999
2月	16	35	17,199	1,553	8,356	27,159	34,913	28,603
3月	46	56	29,380	3,585	10,498	43,565	47,842	41,847
4月	100	91	27,902	4,715	9,911	42,719	47,725	34,355
5月	153	112	36,833	7,504	9,726	54,328	61,669	34,458
6月	207	114	24,401	3,239	9,701	37,662	40,746	29,243
7月	117	148	30,886	3,667	10,087	44,905	47,832	43,128
8月	90	91	45,405	4,928	10,373	60,887	65,108	41,181
9月	126	61	27,555	3,504	9,137	40,383	46,762	34,553
10月	229	141	33,679	6,487	10,007	50,543	49,943	43,173
11月	576	254	36,877	5,066	10,359	53,132	57,684	52,882
12月	224	115	28,520	2,270	10,318	41,447	42,493	41,820
計	1,936	1,296	361,826	48,148	117,099	530,305	582,493	453,242

©小豆島観光協会 2023

出典：2022年小豆島各港別乗降客等調査表



出典：2022年小豆島各港別乗降客等調査表

図 2.2-26 月別車両乗降推移

2) 小豆島内の移動手段

- ・島内における移動手段は、外国人観光客で78%、国内観光客は29%が路線バスを利用している
- ・タクシーは島内の一般利用に加え観光利用があるが、コロナ禍の影響を受け厳しい運営状況が続いている
- ・民間事業者によるレンタサイクルの取組が実施されており、公共交通との連携がのぞまれる
- ・島民の利用は土庄港周辺と小豆島役場周辺が中心であり、小豆島ふるさと村はその中間に位置する

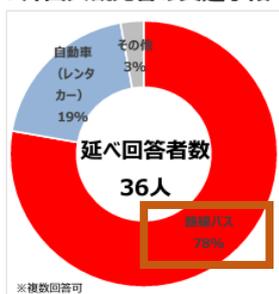
【公共交通】

表 2.2-18 公共交通ネットワーク一覧

▼小豆島地域の公共交通ネットワーク		
手段	ルート等	備考
航路	土庄港	高松～小豆島（土庄）フェリー・高速船 新岡山～小豆島（土庄）フェリー 宇野～豊島～小豆島（土庄）フェリー・旅客船
	池田港 草壁港 坂手港 福田港 大部港	高松～小豆島（池田）フェリー 高松～小豆島（草壁）フェリー【運休中】・高速船【運休中】 神戸～小豆島（坂手）～高松（高松東港）フェリー 姫路～小豆島（福田）フェリー 日生～小豆島（大部）フェリー
路線バス	小豆島内	坂手線・南廻り福田線 北廻り福田線 四海線 西浦線 中山線 神懸線【季節運行】 田ノ浦映画村線
町営バス	豊島内 小豆島内	豊島シャトルバス（土庄町） 三都線（小豆島町）
スクールバス	学区内	土庄中学校、土庄小学校、豊島中学校（11-2月のみ）、豊島小学校 小豆島中学校、池田小学校、星城小学校、安田小学校
福祉バス	土庄町内	四海（滝宮）、北浦（空地・ナベウ） 大鐸（小馬越・笠滝）
乗合タクシー	小豆島町内	小蒲野～池田港ターミナル前【事前登録制・予約制】
その他	小豆島内 豊島内	タクシー、レンタカー、レンタサイクル タクシー、レンタサイクル

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

▼外国人観光客の交通手段



▼国内観光客の交通手段



出典：小豆島地域公共交通計画アンケート調査結果

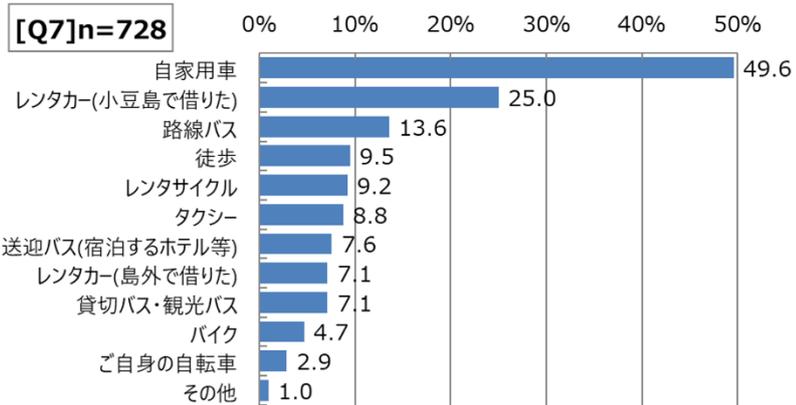
図 2.2-27 島内における観光客の交通手段

【移動手段】

表 2.2-19 来訪時の島内交通手段（エリア・年齢別）

		Q7 小豆島内での交通手段はどれに当たりますか？(いくつでも) ※数回小豆島を訪れている方は、直近の旅行でのことをお答えください。												
		全体	自家用車	レンタカー (小豆島で 借りた)	レンタカー (島外で 借りた)	タクシー	バイク	路線バス	送迎バス (宿泊する ホテル等)	貸切バス・ 観光バス	ご自身の 自転車	レンタサイクル	徒歩	その他
全体		728	49.6	25.0	7.1	8.8	4.7	13.6	7.6	7.1	2.9	9.2	9.5	1.0
エリア別	関西圏	220	54.5	23.2	4.1	6.8	3.6	14.5	7.3	5.9	2.3	9.1	6.8	1.8
	中国圏	145	60.7	13.1	2.1	9.0	6.2	11.0	4.1	10.3	3.4	6.2	10.3	0.7
	九州圏	73	23.3	39.7	20.5	8.2	4.1	19.2	9.6	11.0	4.1	11.0	8.2	1.4
	関東圏	145	17.9	47.6	14.5	15.9	6.2	17.9	15.2	7.6	2.1	15.9	15.2	0.0
	四国圏(小豆島を除く)	145	75.9	9.7	2.8	4.8	3.4	7.6	2.8	3.4	3.4	4.8	7.6	0.7
性年代別	男性・計	431	47.1	27.6	8.1	9.3	5.6	13.2	7.2	7.7	3.5	10.4	9.5	0.2
	男性18～34歳	108	42.6	33.3	11.1	10.2	6.5	14.8	9.3	4.6	1.9	7.4	8.3	0.0
	男性35～50歳	147	46.9	32.0	10.9	11.6	6.8	13.6	6.8	4.1	5.4	12.2	10.2	0.0
	男性51歳以上	176	50.0	20.5	4.0	6.8	4.0	11.9	6.3	12.5	2.8	10.8	9.7	0.6
	女性・計	297	53.2	21.2	5.7	8.1	3.4	14.1	8.1	6.4	2.0	7.4	9.4	2.0
	女性18～34歳	138	51.4	24.6	4.3	8.0	5.1	12.3	8.7	4.3	2.9	8.7	9.4	1.4
	女性35～50歳	94	55.3	18.1	8.5	5.3	2.1	13.8	7.4	6.4	2.1	6.4	7.4	2.1
女性51歳以上	65	53.8	18.5	4.6	12.3	1.5	18.5	7.7	10.8	0.0	6.2	12.3	3.1	

- 小豆島来訪時の島内交通手段については、
「自家用車」が 約 50% で最も高く、
次いで「レンタカー(小豆島で借りた)」約 25%、
「路線バス」約 14% となっている。



出典：小豆島観光協会 GAP 調査

図 2.2-28 来訪時の島内交通手段

【その他の交通手段】

〔その他〕

タクシーについては、島内の一般利用とあわせて、観光利用があり、島内における貴重な移動手段として位置付けられる。ただし、昨年からのコロナ禍による観光客数の減少を受け、路線バス事業者と同様に、非常に厳しい運営状況である。

また、レンタサイクルについては、小豆島内は民間事業者が、豊島内は土庄町営に加え、民間事業者も実施している。今後の観光需要の高まり等を勘案すると、これらレンタサイクルとの連携も必要と考えられる。

出典：小豆島地域公共交通計画

3) 島内の人流

来訪者の滞在は、土庄港～土庄町役場周辺、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺の他、オリーブ公園周辺等島の南側に集中しており、一部、大部や福田等北側にも滞りがみられる。

また島民による買物行動は、土庄港周辺及び小豆島町役場周辺で多くみられる。

【島外居住者の休日滞在地】

【2018 休日】

- ・平均サンプル数は 292.6 であり、近畿が 31.5%、関東 11.1%、高松市 8.8%、岡山 6.9% である。
- ・滞在の多い箇所としては、土庄港～土庄町役場周辺・マルナカ周辺や、池田港・小豆島中央病院、小豆島町役場～苗羽周辺のほか、オリーブ公園周辺や福田や大部など北側にも滞りがみられる。



【2019 休日 (GW+瀬戸芸)】

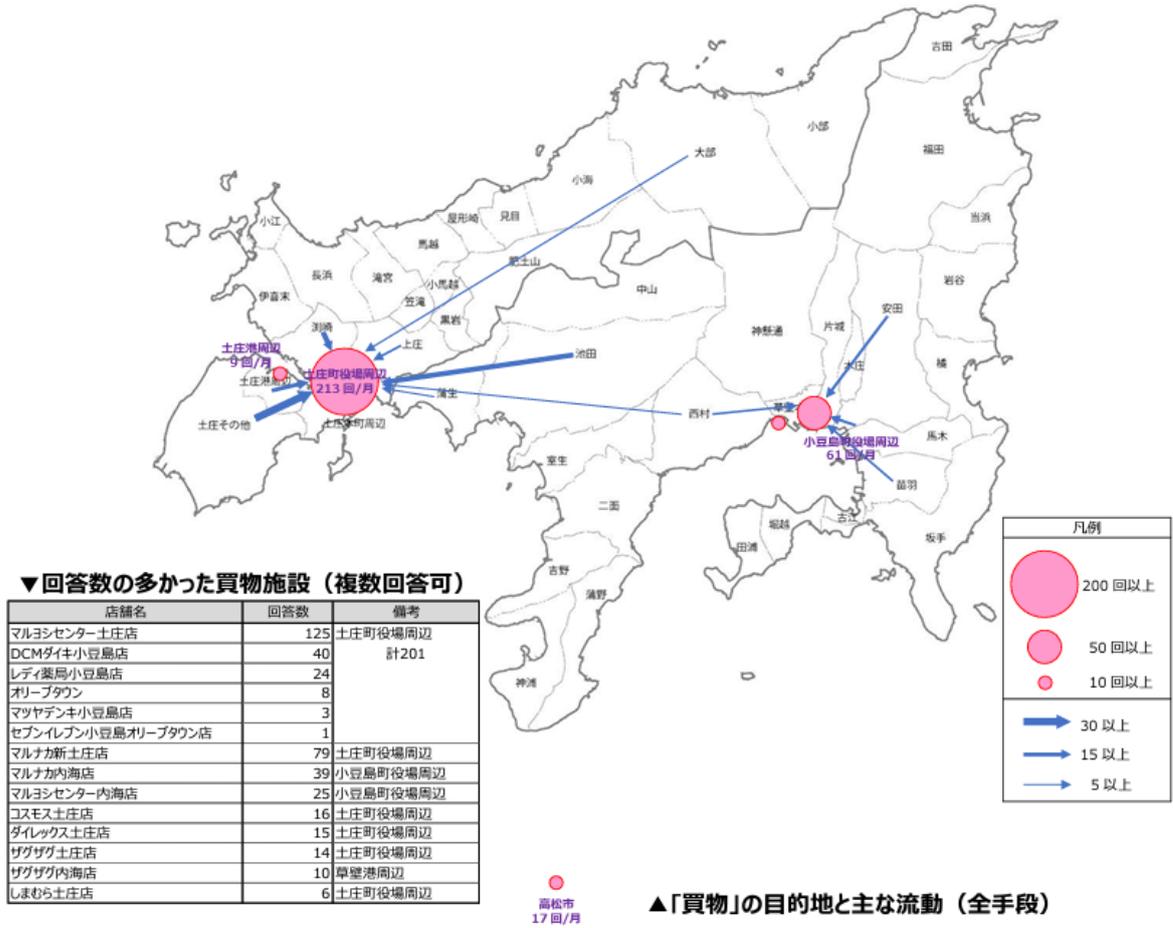
- ・平均サンプル数は 958.9 であり、近畿が 32.4%、関東 11.2%、高松市 8.4%、岡山 9.8% である。
- ・滞在の多い箇所としては 2018 休日と同様であるが、滞在箇所が広範囲に分布しており、特に豊島や中山地区等にも滞りが多くみられる。



※「滞在」対象者が 10 分以上滞在したメッシュ。

出典：小豆島地域公共交通計画

図 2.2-29 島外居住者の休日滞在地



出典) H30 島民アンケート調査 (小豆島地域公共交通協議会調べ)

出典：小豆島地域公共交通計画

図 2.2-30 買物にまつわる施設と流動

2.2.4 対象地の分析

(1) ヒト

「ヒト」の観点から、1)小豆島ふるさと村の利用者数、2)小豆島ふるさと村の運営状況に関する基礎情報を整理した。

小豆島ふるさと村は島内の主要観光地の一つであるが、コロナ禍を機に入込客数が大きく減少し、人手不足により稼働率も低下している。

1)小豆島ふるさと村の利用者数

- ・小豆島内の主要観光施設の一つであり、コロナ前時点（令和元年度）では島内4番目の入込客数であったが、コロナを機に大きく減少している
- ・ふるさと村内施設の利用者数は、道の駅が14,550人/年、テニスコート等の体育施設が12,187人/年、国民宿舎は10,825人/年となっている
- ・ファミリープールの使用は7月～8月のみであり、釣棧橋は令和4年6月から利用を中止している

表 2.2-20 主要観光施設の入込客数

■主要観光施設の入込客数(令和3年4月現在) (単位:人)

観光地名	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
		平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
寒霞渓		311,184	309,669	285,594	280,471	311,018	316,193	349,661	320,956	318,948	142,060
岬の分教場		72,604	70,315	59,577	56,956	54,433	49,946	47,623	60,219	68,134	26,947
二十四の瞳映画村		193,697	209,304	214,316	186,884	198,609	183,734	199,419	195,096	205,656	90,635
オリーブ公園		279,411	311,162	352,795	327,635	336,872	345,651	371,189	349,258	388,565	151,912
オートビレッジYOSHIDA		16,594	17,240	18,543	17,752	14,009	16,433	17,222	17,016	19,406	12,961
オリーブ園		160,600	158,500	161,300	146,100	151,100	144,500	148,500	133,800	133,700	69,100
マルキン醤油記念館※		76,888	77,697	83,065	75,427	75,841	-	-	-	-	-
ふるさと村		201,952	199,623	169,026	165,211	176,435	193,208	166,941	151,712	194,886	55,181
計		1,312,930	1,353,510	1,344,216	1,256,436	1,318,317	1,249,665	1,300,555	1,228,057	1,329,295	548,796

※マルキン醤油記念館:H28.1～無料開館としているため人数把握不可

【商工観光課】

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

表 2.2-21 令和4年度小豆島ふるさと村利用者数

施設名	令和4年度小豆島ふるさと村利用者数												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ワインハウス	67	88	97	85	130	30	560	170	0	20	40	190	1,477
ファミリープール				967	2,828								3,795
イベント広場	110	87	312	646	130	367	2,315	254	33	39	4	578	4,875
うみちかふらっと	70	63	26	34	63	55	56	58	39	42	28	72	606
ふるさとロッジ	587	713	495	1,081	1,644	569	790	952	470	478	457	1,058	9,294
ファミリーロッジ 会議・食事													0
ロッジ合計	587	713	495	1,081	1,644	569	790	952	470	478	457	1,058	9,294
オートキャンプ	297	447	49	280	679	185	280	190	199	130	89	266	3,091
フリーキャンプ	80	136	45	42	112	26	71	45	33	32	6	38	666
デイキャンプ	27	2	0	5	20	0	0	4	0	0	0	0	58
トレーラーハウス	24	41	3	65	156	10	30	18	35	11	9	12	414
キャビン	76	106	16	50	173	31	52	41	21	23	0	62	651
キャンプ合計	504	732	113	442	1,140	252	433	298	288	196	104	378	4,890
釣棧橋(大人)	82	114	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	196
釣棧橋(小人)	72	91	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163
釣棧橋合計	154	205	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	359
テニスコート	261	270	229	226	208	210	215	223	215	192	106	210	2,565
体育館	204	166	163	207	325	212	244	332	407	410	280	382	3,332
グラウンド	528	580	505	460	394	426	493	565	551	518	520	750	6,290
体育施設合計	993	1,016	897	893	927	848	952	1,120	1,173	1,120	906	1,342	12,187
喫茶	1,100	1,895	800	1,706	3,294	1,125	1,463	1,533	924	661	374	1,463	16,338
カラオケ													0
ふるさと村小計	3,585	4,799	2,740	5,854	10,156	3,246	6,569	4,385	2,927	2,556	1,913	5,081	53,811
国民宿舎宿泊	693	873	528	997	1,516	836	1,190	1,423	683	585	574	927	10,825
国民宿舎食事													0
国民宿舎合計	693	873	528	997	1,516	836	1,190	1,423	683	585	574	927	10,825
ふれあい農園	387	387	0	0	0	0	0	0	178	385	501	834	2,672
手延そうめん館	180	441	220	379	783	291	308	425	243	89	211	369	3,939
夢想館(美術)	0	766	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	766
夢想館(夢工房)	58	100	70	30	85	52	128	47	97	34	26	28	755
その他小計	625	1,694	290	409	868	343	436	472	518	508	738	1,231	8,132
その他(道の駅)	980	1,473	711	1,452	2,508	885	1,639	1,256	825	729	645	1,447	14,550
総合計	5,883	8,839	4,269	8,712	15,048	5,310	9,834	7,536	4,953	4,378	3,870	8,686	87,318

※ファミリープールの使用は7月～8月

※釣棧橋は令和4年6月から利用中止

出典：小豆島ふるさと村指定管理データより

2)小豆島ふるさと村の運営状況

- ・コロナ禍により入込客数が減少したが、令和4年度の売上はコロナ前の83%まで回復
- ・施設の老朽化により釣棧橋の閉鎖、プールの部分閉業を行っている
- ・宿泊は人手不足で食事提供や昼食団体、地元宴会などのニーズに対応しきれていない

出典：令和5年度（一財）小豆島ふるさと村理事会議案

(2) 環境

「環境」の観点から、1)小豆島ふるさと村の自然環境、2)小豆島ふるさと村の施設状況について基礎情報を整理した。

小豆島ふるさと村は眺望がよく海を身近に感じられる一方で、高低差や施設間の連携不足により施設としての一体感を感じにくい状況である。

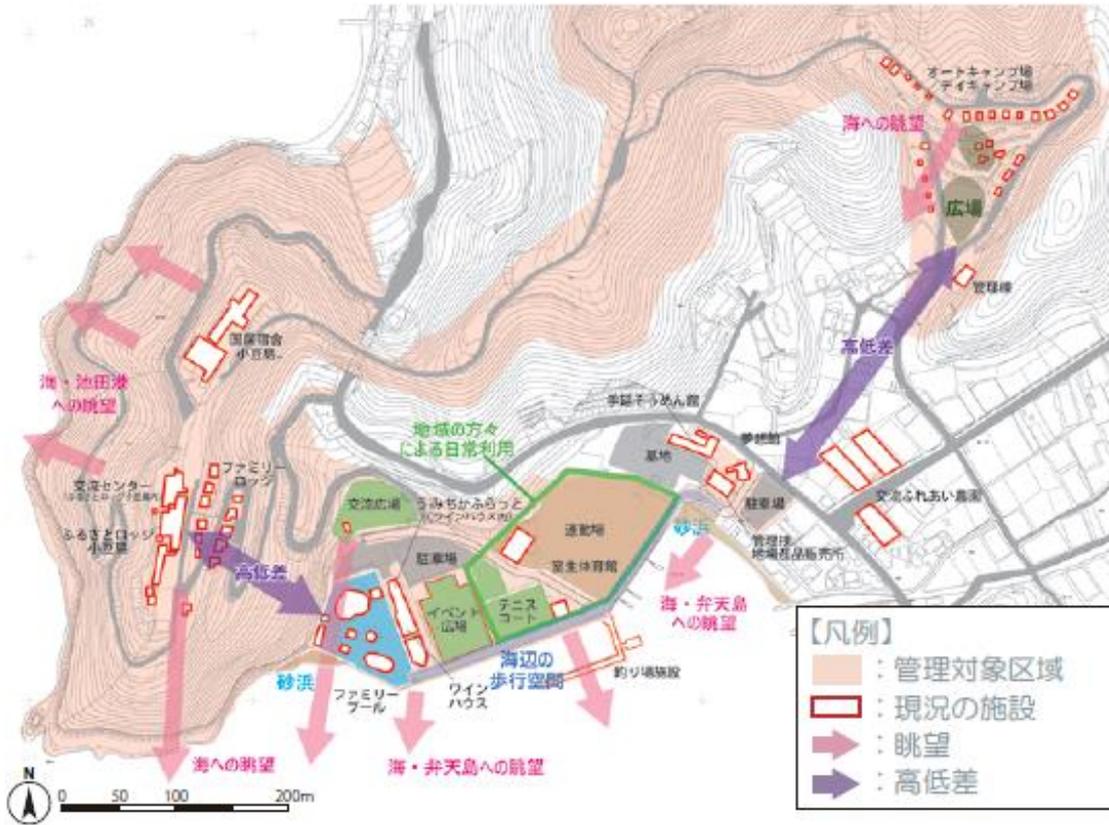


図 2.2-31 対象地分析図

1)小豆島ふるさと村の自然環境

- ・高台からの眺望が特徴的で、砂浜や護岸から海を身近に感じられる
- ・特徴的な島嶼部の海岸・自然景観を有し、海側からも視対象になりやすい

【眺望】

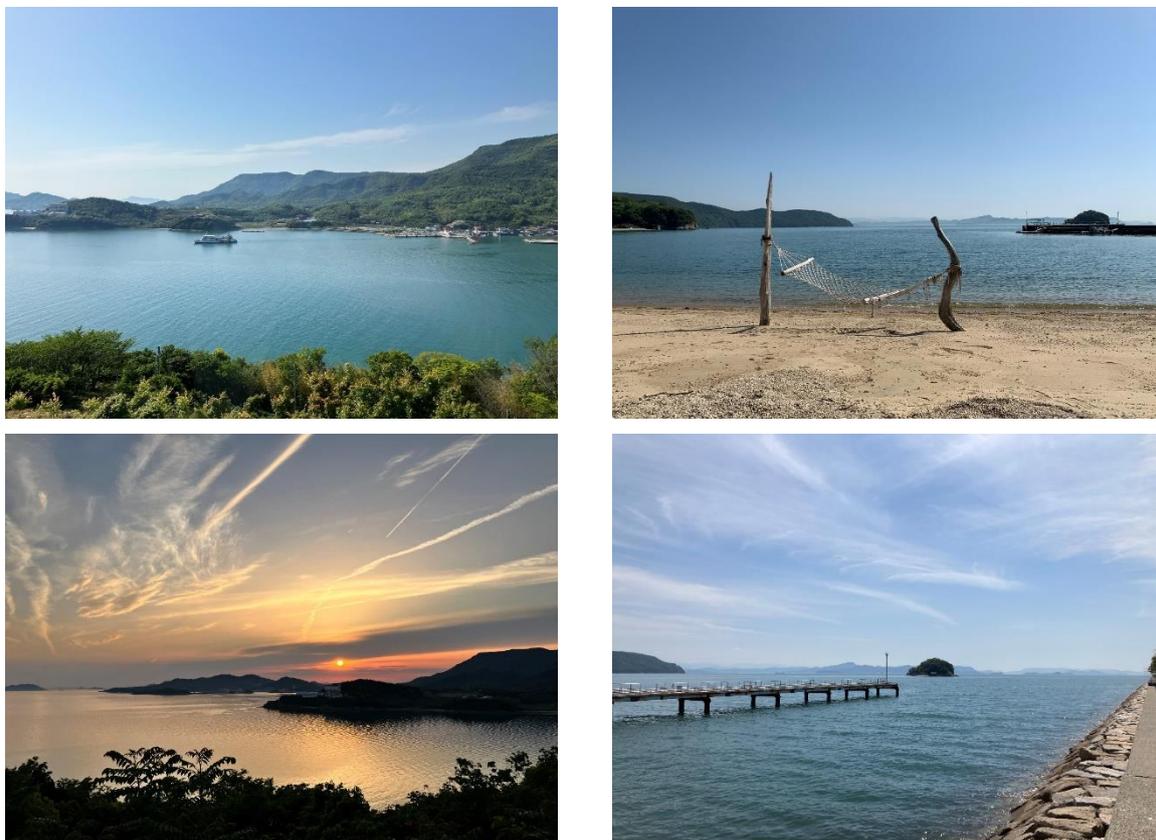
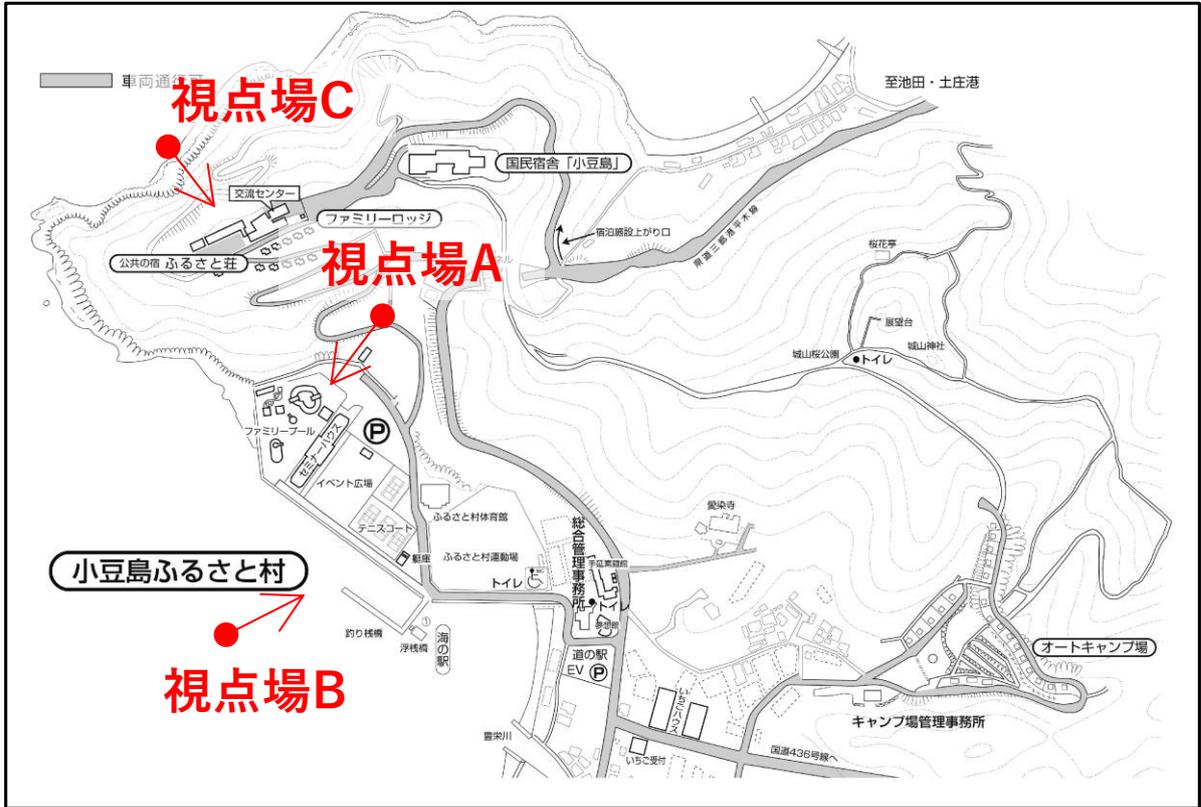


図 2.2-32 小豆島ふるさと村の眺望

【景観】

UAV で計測・取得した当該エリアの 3 次元点群データを活用し、景観の立体的な検証を実施した。視点場の設定は下図に、各視点場における現状の景観を次頁に示す。



出典：小豆島ふるさと村マップをもとに作成

図 2.2-33 視点場

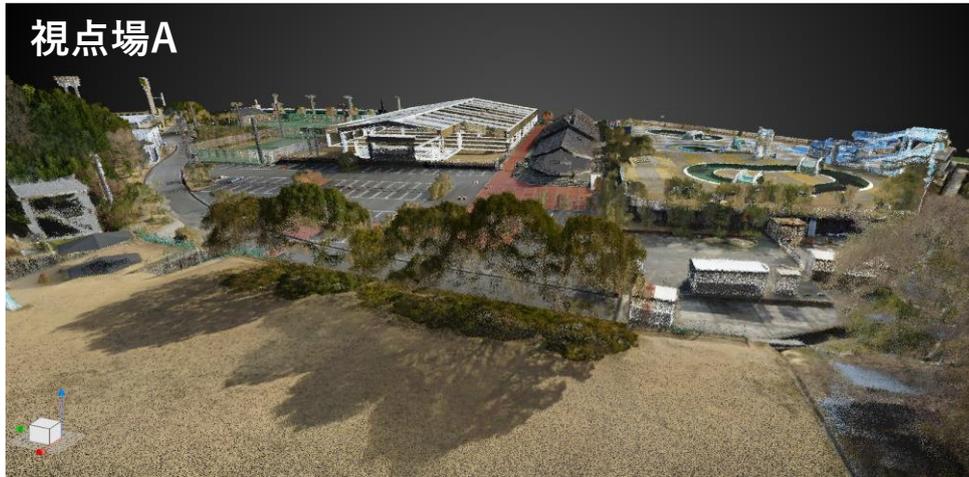


図 2.2-34(1) 現状の景観（視点場 A）



図 2.2-34(2) 現状の景観（視点場 B）



図 2.2-34(3) 現状の景観（視点場 C）

2)小豆島ふるさと村施設状況

- ・海の駅と道の駅が隣接し、多種の施設が集結している
- ・敷地内の高低差が大きく、ひとつの施設としての一体感を感じにくい
- ・施設間の連携が取れておらず、部分的な利活用に留まっている

【施設の種類】

表 2.2-22 既存施設の諸元

No.	施設名	竣工年	構造	面積(m ²)	建物用途
1	管理棟	1991/03/31	木造平屋建	254.75	事務所・喫茶店
2	ワインハウス	1989/04/01	鉄骨・木造平屋建	386	多目的ホール、売店等
3	プール管理棟	1990/03/31	鉄骨・木造平屋建	109.3	事務所
4	ファミリープール	1991/07/01	その他	5,800	流水プール、プール管理棟等
5	オリビアンシアター	1991/07/01	その他	50.96	その他の鉄道用又は軌道用のもの
6	イベント広場	1991/09/12	その他	4,120	天然芝、開閉式屋根
7	オートキャンプ場、デイキャンプ場	—	その他	約 4,573	—
8	ファミリーロッジ	1992/03/31	木造平屋建	一戸 49.53	寮舎・宿舎
9	ふるさとロッジ小豆島 (公共の宿ふるさと荘)	1992/03/31	鉄筋コンクリート造平屋建	959	寮舎・宿舎
10	国民宿舎小豆島	1974/04/01	鉄筋鉄骨コンクリート造 3階建	2,887.82	寮舎・宿舎
11	交流センター (公共の宿ふるさと荘内)	2002/02/19	鉄筋コンクリート造平屋建	417.16	受付・事務室・トイレ他
12	交流ふれあい農園	1990/03/31	ハイハウス 3棟	1,716	管理棟等
13	夢想館	1991/01/31	ブロック造 2階建	342.9	美術展示室・夢工房等
14	室生体育館	1983/03/31	鉄骨コンクリート造平屋建	596.65	体育館、倉庫(イベント用)有
15	運動場	—	その他	10,500	更衣室、倉庫、ベンチ等
16	テニスコート	1990/03/31	その他	3,118	全天候型 4面、夜間照明

参考資料：小豆島ふるさと村施設案内

【高低差】

UAV で計測・取得した当該エリアの 3 次元点群データを活用し、現状の小豆島ふるさと村の断面形状を分析した。小豆島ふるさと村の現状施設の断面形状は、以下図に示すとおりである。

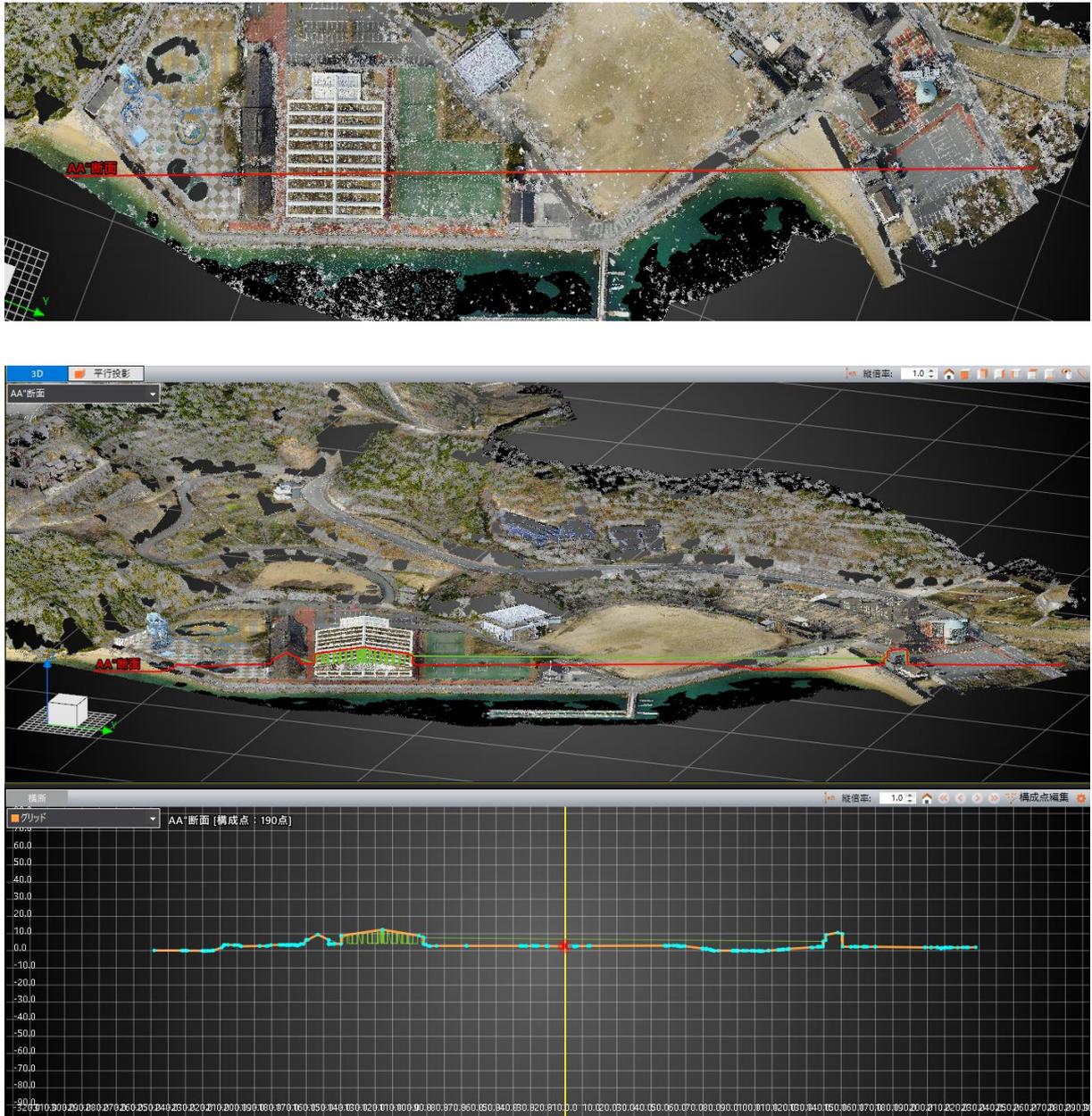


図 2.2-35(1) 断面形状 (A-A'断面)

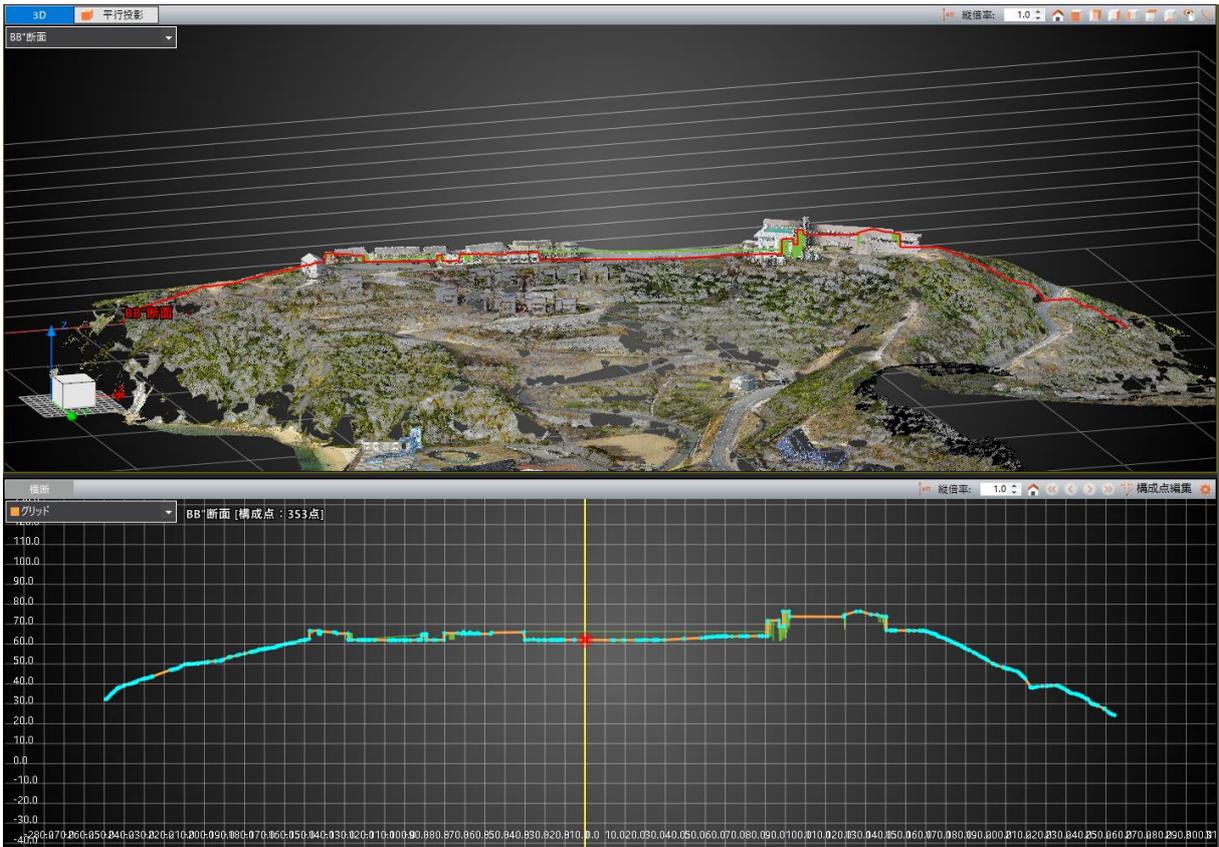


图 2.2-35(2) 断面形状 (B-B'断面)

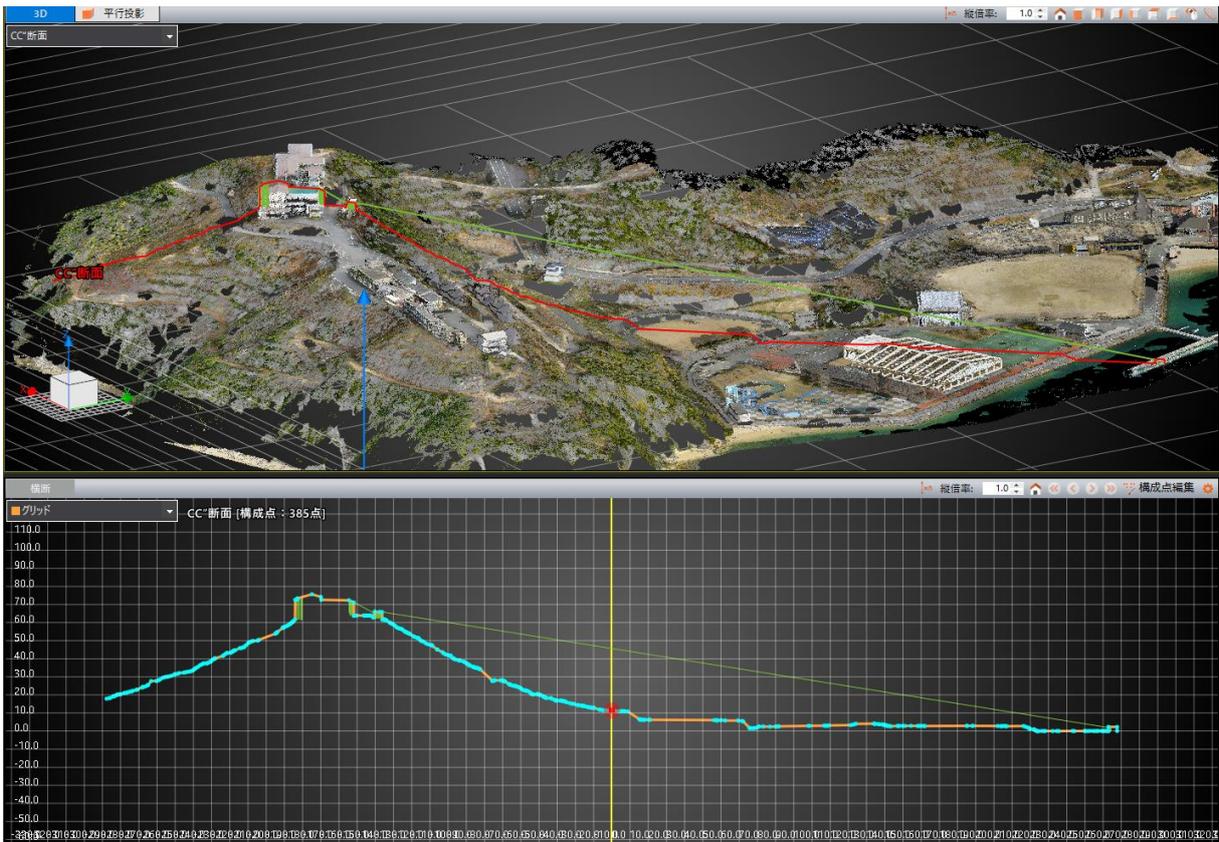


图 2.2-35(3) 断面形状 (C-C'断面)

(3) 産業

「産業」の観点から、1)小豆島ふるさと村内の地域振興施設に関する基礎情報を整理した。

小豆島ふるさと村では、手延そうめん館での実演・試食体験の提供や、道の駅や国民宿舎での土産物販売等による地域振興の取組がみられる。

1)小豆島ふるさと村内の地域振興施設

- ・手延そうめん館では地域振興を目的とした実演・試食体験を提供しており、2022年は年間約4,000人の利用者数となっている
- ・道の駅や国民宿舎では土産物の販売をおこなっている

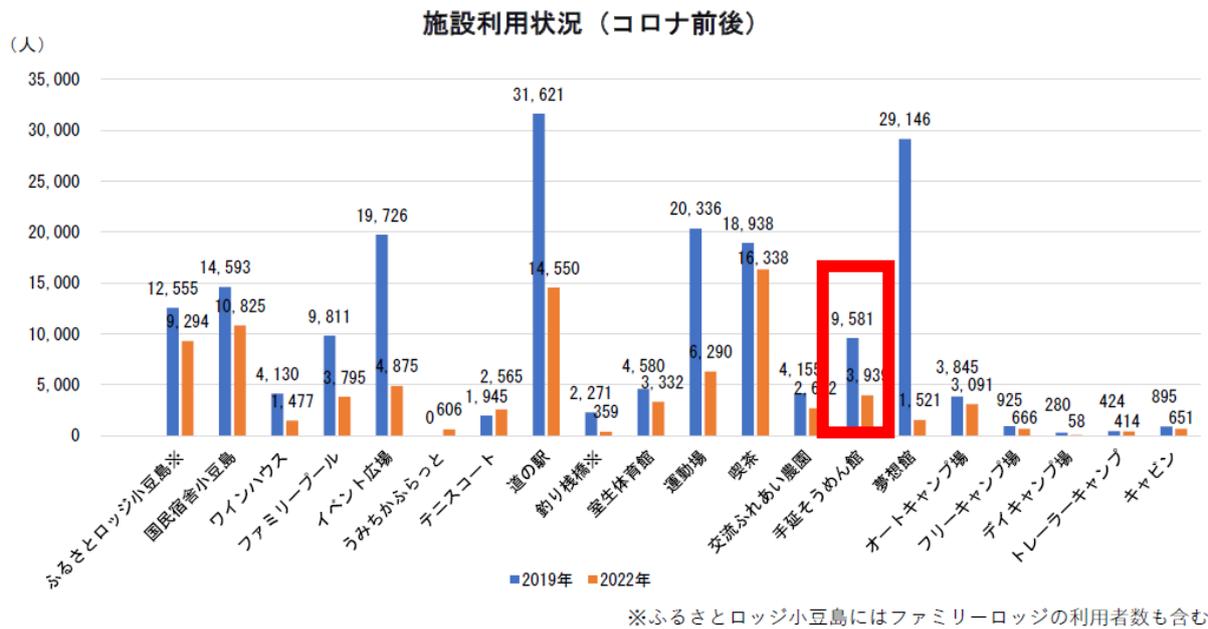


図 2.2-36 施設利用状況

(4) 移動

「移動」の観点から、1)小豆島ふるさと村へのアクセス、2)小豆島ふるさと村からの移動手段、3)小豆島ふるさと村内の移動に関する基礎情報を整理した。

小豆島ふるさと村へは池田港から路線バスや豆モビを利用してアクセス可能であるが、施設間の距離や高低差が大きいため、敷地内における回遊が難しい状況である。

1)小豆島ふるさと村へのアクセス

- ・池田港～小豆島ふるさと村は路線バス（三都西線）でアクセス可能であるが、町営で路線を維持していることや利便性の面での課題がある

【路線バス】

〔路線バス〕

H27年度の小豆島地域公共交通網形成計画（以下、「前回計画」とする）により、路線バスの再編を行い、小豆島中央病院及び小豆島中央高校を中心とした路線・ダイヤ・便数を設定し、利用者数の増加といった一定の効果を得た。一方で、従来は直通便の存在した土庄港～福田港などの利用者の中には、乗り換えを余儀なくされるケースもみられ、これらに対する改善要望がアンケート調査等により多数あげられている。

また、航路とのアクセス向上については、引き続き、アンケート調査等の要望として多くあがっており、今回の高松～小豆島（草壁）フェリーの休止と合わせて、利用者の利便性向上を目指したダイヤの検討が必要である。

なお、前回計画により行った料金施策（上限運賃300円）については、利用者からは概ね好評を得ているものの、バス事業者の経営状況を診断したところ、非常に厳しい運営状況であることが確認され、両町からの減収補填（公的負担）により赤字が賄われている状況にある。

出典：小豆島地域公共交通計画

【交通量】

表 2.2-23 小豆島ふるさと村の交通量

(台)

	昼間 12 時間自動車類交通量 (上下合計)			24 時間自動車類交通量 (上下合計)		
	小型車	大型車	合計	小型車	大型車	合計
三都港	1756	134	1890	2148	215	2363
平木線	1756	134	1890	2148	215	2363

出典：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査

2)ふるさと村からの移動手段

- ・島内二次交通として豆モビやレンタサイクルの貸出事業が行われている
- ・豆モビの R4 年度の貸出台数は 186 台であり、R2 年度、R3 年度以降増加している

【豆モビ】

表 2.2-24 豆モビ利用台数 (H29~R4)

(台)

豆 モ ビ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	H29		8	24	12	11	28	18	9	17	6	4	9	15
H30		17	24	12	8	26	18	21	16	4	4	15	12	177
R1		14	34	15	18	26	22	30	18	10	7	7	13	214
R2		5	0	3	4	19	19	15	27	9	0	5	8	114
R3		6	6	10	11	9	10	14	20	10	7	5	24	132
R4		25	26	18	17	36	15	17	5	6	5	7	9	186

※R4.8.23 利用者の自損事故により1台廃車処分。以降1台のみで運用中。

3)小豆島ふるさと村内の移動

- ・敷地内高低差が大きく、園路（車道含む）は急な坂道や階段が多い
- ・敷地が広大であり、管理棟や駐車場からの移動に時間がかかる

【園路】



図 2.2-37 交流広場から見た園路

2.2.5 敷地分析結果

周辺エリア及び全国の観光動向、周辺地域の分析、対象地の分析を踏まえ、小豆島及び小豆島ふるさと村の現状を以下のとおり整理した。

小豆島全体では、地域の取組が面的な広がりを見せていない点、小豆島ふるさと村では、結節点としての役割を十分に発揮できていない点が問題点として挙げられる。

【現状】

■ヒト

小豆島：少子高齢化による産業の担い手不足、コロナ禍を契機とした観光客数及び宿泊施設数の減少、飲食店の不足

ふるさと村：コロナ禍を機に入込客数が大きく減少し、人手不足により稼働率も低下

■環境

小豆島：豊かな自然を活かした多様なコンテンツが各港を中心に分布

ふるさと村：眺望がよく海を身近に感じられる一方で、敷地が広大で高低差があるため一体的な利用がしにくい

■産業

小豆島：オリーブを筆頭に、島の気候を活かした農産物や、醤油・佃煮・そうめん等の伝統的な食品産業が盛ん

ふるさと村：手延そうめん館での実演・試食体験の提供、道の駅や国民宿舎での土産物販売等による地域振興の取組

■移動

小豆島：日常生活・観光客の島内における貴重な移動手段として路線バスが運行

ふるさと村：池田港から路線バスでアクセス、豆モビで島内を周遊できるが、敷地内における回遊が難しい

【問題点】

小豆島全体：地域の取組が面的な広がりを見せていない

ふるさと村：結節点としての役割を十分に発揮できていない

2.3 現状と課題の整理

2.3.1 周辺エリアの現状と課題

周辺エリアの状況より、小豆島の現状と課題を下図のとおり整理した。小豆島の観光コンテンツに着目すると、土庄港周辺及び内海湾沿岸地域に宿泊・飲食施設、観光施設が多く分布している。

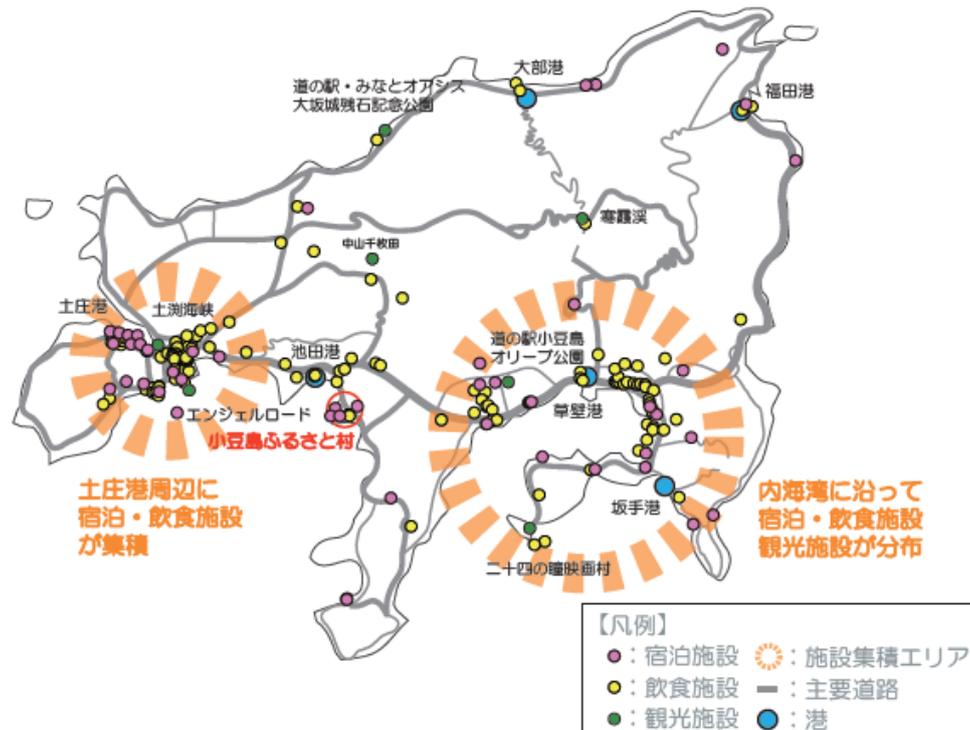


図 2.3-1 小豆島観光コンテンツ分析図

現況把握を踏まえた敷地分析の結果

■ ヒト

少子高齢化による産業の担い手不足、コロナ禍を契機とした観光客数及び宿泊施設数の減少、飲食店の不足

■ 環境

豊かな自然を活かした多様なコンテンツが各港を中心に分布

■ 産業

オリーブを筆頭に、島の気候を活かした農産物や、醤油・佃煮・そうめん等の伝統的な食品産業が盛ん

■ 移動

日常生活・観光客の島内における貴重な移動手段として路線バスが運行

【課題】

ヒト：滞在時間の長時間化、若者・ファミリー層観光客の増加が必要

環境：島固有の自然環境の保全・活用、観光コンテンツの充実が必要

産業：伝統産業の継続的な発展が必要

移動：島内の観光施設をつなぐ移動手段の拡充が必要

2.3.2 小豆島ふるさと村の現状と課題

対象地の状況より、小豆島の現状と課題を下図のとおり整理した。

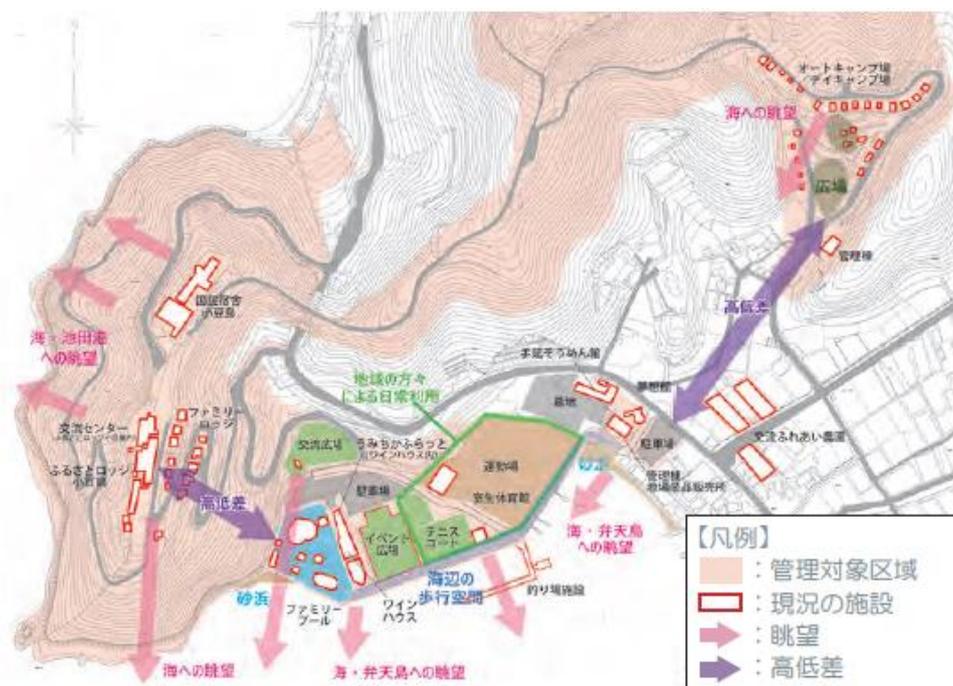


図 2.3-2 小豆島ふるさと村敷地分析図

現況把握を踏まえた敷地分析の結果

■ヒト

コロナ禍を機に入込客数が大きく減少し、人手不足により稼働率も低下

■環境

眺望がよく海を身近に感じられる一方で、敷地が広大で高低差があるため一体的な利用がしにくい

■産業

手延そうめん館での実演・試食体験の提供、道の駅や国民宿舎での土産物販売等による地域振興の取組

■移動

池田港から路線バスでアクセス、豆モビで島内を周遊できるが、敷地内における回遊が難しい

【課題】

ヒト：観光・生活の拠点として立ち寄る人の増加、民間活力導入による働き手の確保と運営の効率化が必要

環境：海への眺望や地形を活かしたコンテンツ、滞在時間を延ばせるアクティビティや機能の整備が必要

産業：島の伝統的な産業を活かした体験コンテンツの提供が必要

移動：敷地内の回遊性向上や、島内観光施設間の移動の利便性向上が必要

2.4 コンセプト・整備方針の整理

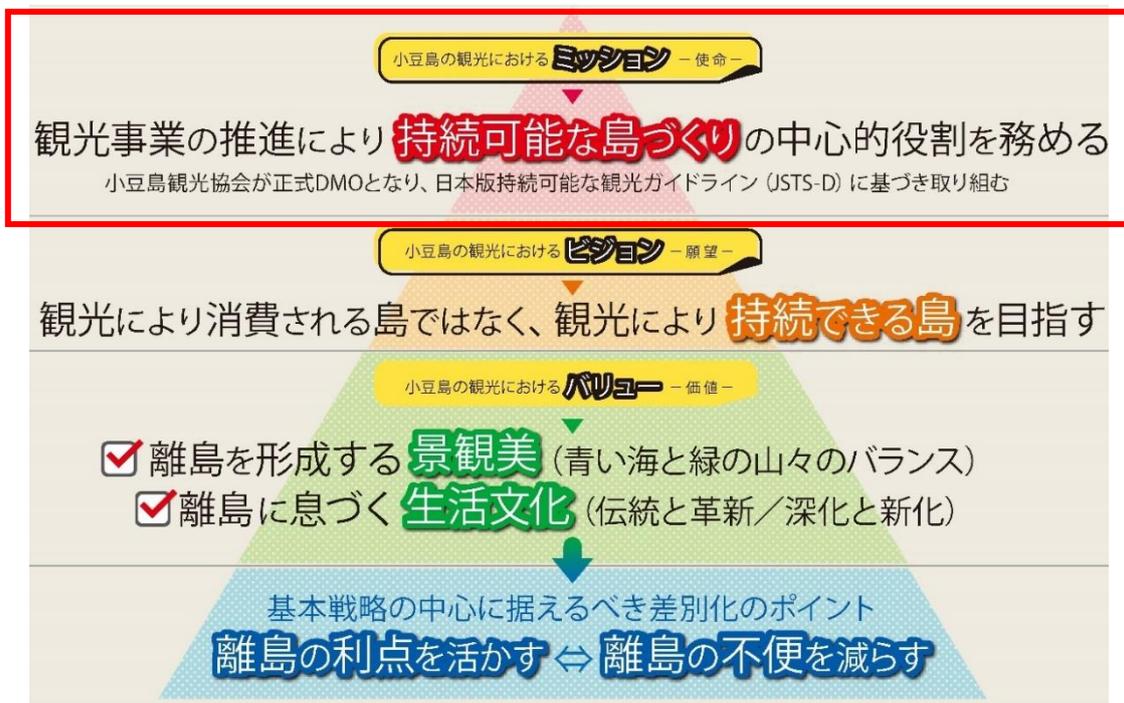
2.4.1 コンセプトの検討

(1) 持続可能な観光地としての取組み

1) 小豆島町としての取組み経緯

小豆島町は、2021年から2年連続で「世界の持続可能な観光地 TOP100 選」に選出されている。「持続可能な観光」とは、「自然」「文化」「伝統」「そこに暮らす人々」などの地域資源を生かし、旅行者を受入、地域経済を発展させながら、同時に自然環境や文化、伝統を守るという、「そこに暮らす人々」の未来にも十分に配慮した観光のかたちを示すものである。この取組みについて広く知られることで、持続可能な社会の形成に関心が高い国内外の観光客の誘客が期待できる。

また、令和6年1月には土庄町とともに『小豆島観光ビジョン』を策定しており、「観光事業の推進により持続可能な島づくりの中心的役割を務める」ことを小豆島の観光におけるミッションとして掲げ、観光により持続できる島を目指している。



出典：小豆島観光ビジョン（令和6年1月）／土庄町・小豆島町

図 2.4-1 小豆島観光ビジョンにおける目標設定

2)小豆島の持続可能性

前頁で整理した取組み経緯を踏まえると、持続可能な観光地としての小豆島を形成する要素は「自然」、「生業」、「文化・伝統」の3つのレイヤーで整理することができる。以下にそれぞれのレイヤーについて整理する。

① レイヤー1：自然

小豆島は離島であるため、瀬戸内海を臨む自然景観が豊富である。日本夕陽100選に選出されている夕陽ヶ丘をはじめとした夕陽スポットが多くあり、小豆島ふるさと村もその一つである。また、1日2回、干潮時に発生する砂の道は「エンジェルロード（天使の散歩道）」として、小豆島の主要な観光地の一つを担っている。

② レイヤー2：生業

醤油、素麺、佃煮、石材等の伝統ある地域産業に加え、オリーブや中山千枚田等が特徴的な農業、瀬戸内の豊富な水産資源を活かした漁業等、島独自の生業が見られ、島での豊かな暮らしや体験を提供している。

③ レイヤー3：文化・伝統

小豆島は古くから瀬戸内海の中継地としての役割を果たし、人々の交流の場として機能を発揮してきた。また、小豆島霊場八十八か所や太鼓祭りに見られる島独自の信仰と祭礼の文化が現代まで継承されている点も特徴的である。さらに、大坂城再築時に石垣の材料として多くの石が切り出された大坂城石垣石丁場跡（小豆島石丁場跡）、農村歌舞伎舞台、二十四の瞳映画村等の文化と芸能に関する施設も多く残っており、観光スポットとして活用されている。

3) 小豆島の持続可能性の整理

自然、生業、文化・伝統の3つのレイヤーからみた小豆島の要素について整理すると、小豆島は大規模な開発がされず、古くから残っている自然・産業・文化が多いことで、島独自の暮らしや体験を提供できる環境にあると考えられる。

また、山地が中心の地形と穏やかな気候に、農業や地域産業をはじめとした特徴的な生業、文化・伝統が重なることで、持続可能な観光地が形成されている。

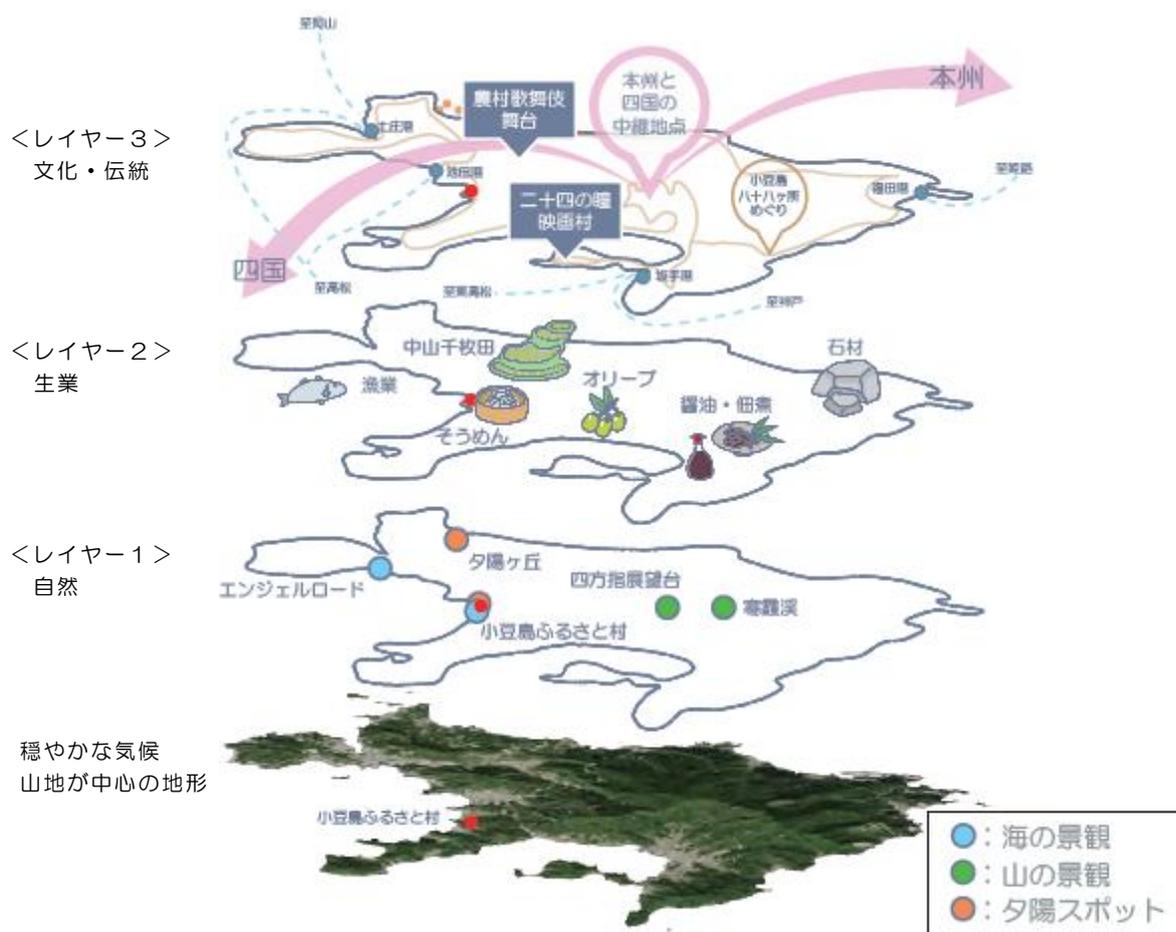


図 2.4-2 小豆島の持続可能性分析図

(2) 小豆島ふるさと村のあるべき姿

令和3年11月に策定された小豆島ふるさと村将来ビジョンでは、メインテーマとして「ECO VILLAGE—エコ・ヴィレッジ—」を掲げている。これを踏まえ、本業務で策定する小豆島ふるさと村全体整備基本計画においては、小豆島ふるさと村のあるべき姿として「観光・交通及び産業の結節点として、まちづくりと相乗効果を発揮する施設」を設定した。

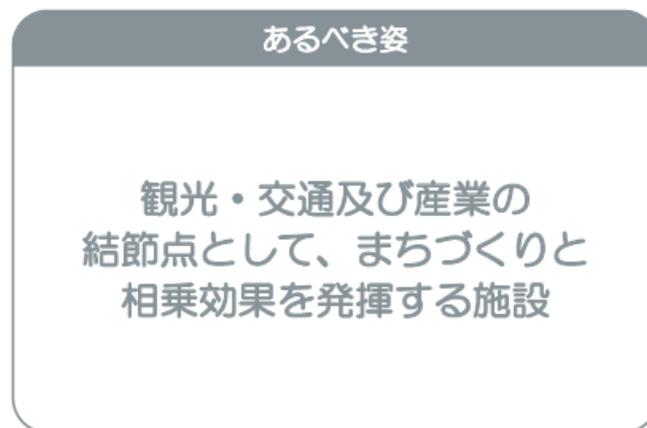


図 2.4-3 小豆島ふるさと村のあるべき姿

(3) 小豆島ふるさと村全体整備のコンセプト

現状把握、敷地分析、関係者ヒアリング調査及び小豆島ふるさと村全体整備基本計画策定委員会の結果を踏まえ、小豆島ふるさと村全体整備のコンセプトを次頁のとおり整理した。



図 2.4-4 小豆島ふるさと村全体整備基本計画コンセプト導出

2.4.2 整備基本方針の検討

小豆島ふるさと村将来ビジョンにおいては、施設の老朽化等すべてをメンテナンスしていくのは費用面からも現実的でないため、「投資の大胆な選択と集中による整備」を行うとされている。また、現状の土地利用をベースに、4つの区分にエリア分けされ、各エリアの方向性が示されている。

本計画では、小豆島ふるさと村将来ビジョンで定められた4つの区分を発展させて4つのゾーンに置き換え、それぞれの名称と各ゾーンの整備基本方針を設定した。

■小豆島ふるさと村将来ビジョンにおける整備方針

「投資の大胆な選択と集中による整備」



出典：小豆島ふるさと村将来ビジョン（令和3年11月）

／小豆島ふるさと村将来ビジョン検討会

図 2.4-5 小豆島ふるさと村将来ビジョンにおけるエリアと整備方針の設定

表 2.4-1 各ゾーンの整備基本方針の設定

ゾーン区分	整備基本方針の設定
宿泊ゾーン	民間活力を最大限活用し、小豆島随一の体験を提供する機能の整備
体験・滞在ゾーン	陸と海の新たなアクティビティ拠点となる機能の整備
道の駅・海の駅ゾーン	観光・交通及び産業のハブとして、小豆島の情報と魅力の発信拠点となる機能の整備
キャンプゾーン	『道の駅・海の駅』と連携し、新たな商品開発やイベント等が可能となる機能の整備

2.5 事業対象区域の設定

小豆島ふるさと村全体整備基本計画事業対象区域を下図のとおり設定した。

事業対象区域の設定にあたっては、現況の小豆島ふるさと村管理対象区域を踏まえ、現況の土地利用を考慮した範囲で設定する方針とし、町有地以外の土地も含め筆界で境界を設定した。

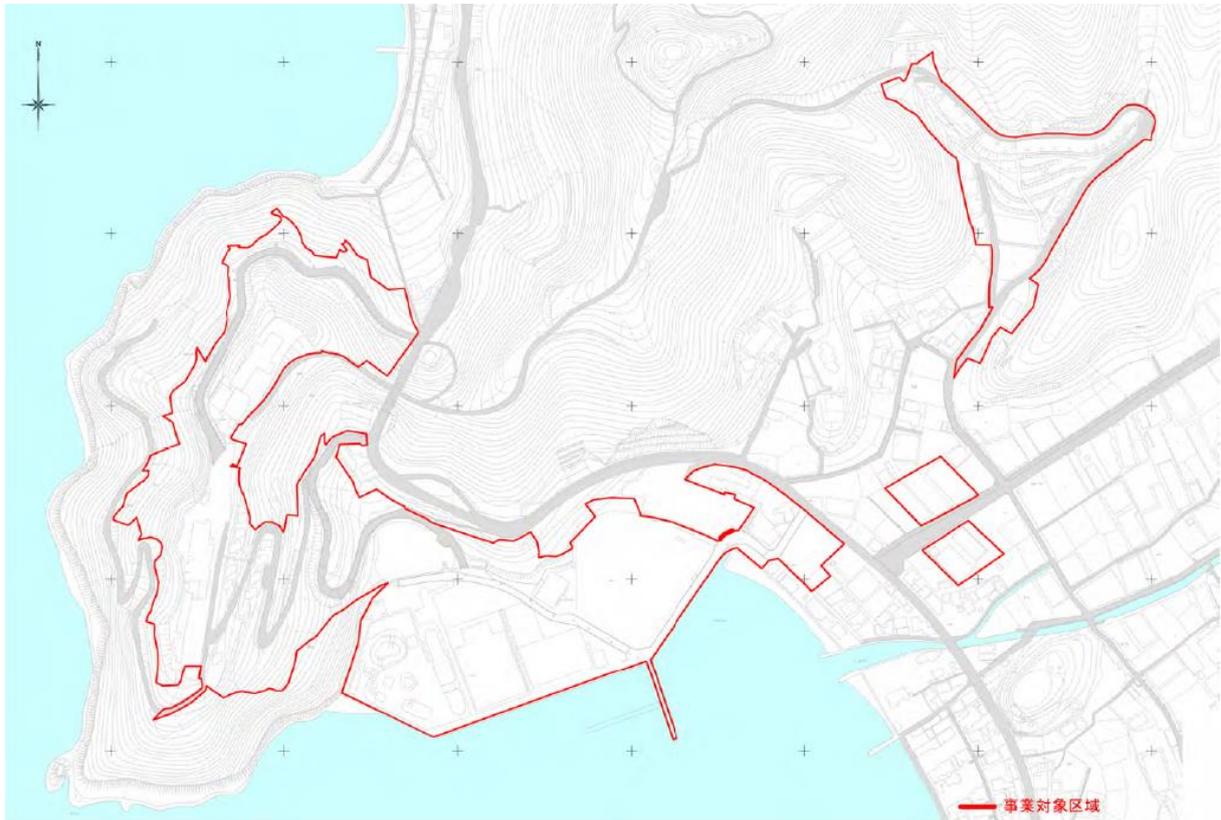


図 2.5-1 事業対象区域図

2.6 需要圏域・利用者層及び利用者数の設定

2.6.1 需要圏域の設定

(1) 現状の需要圏域

国内観光客の小豆島への来訪は、大阪府・兵庫県等関西圏からの来訪が最も多く、次いで四国圏、中国圏が多い。宿泊客についてみると、大阪府・兵庫県などの関西圏からの利用に加え、関東圏からの旅行客が占める割合が高くなっている。

インバウンドについて、東アジアからの観光客は関西国際空港、高松空港や岡山空港を拠点に、欧米からの観光客は関西国際空港を起点にした周遊が見られる。また、本業務で実施した関係者ヒアリング調査では、現在島内主要ホテルでの宿泊受入は台湾・香港が中心となっている、という回答が得られた。

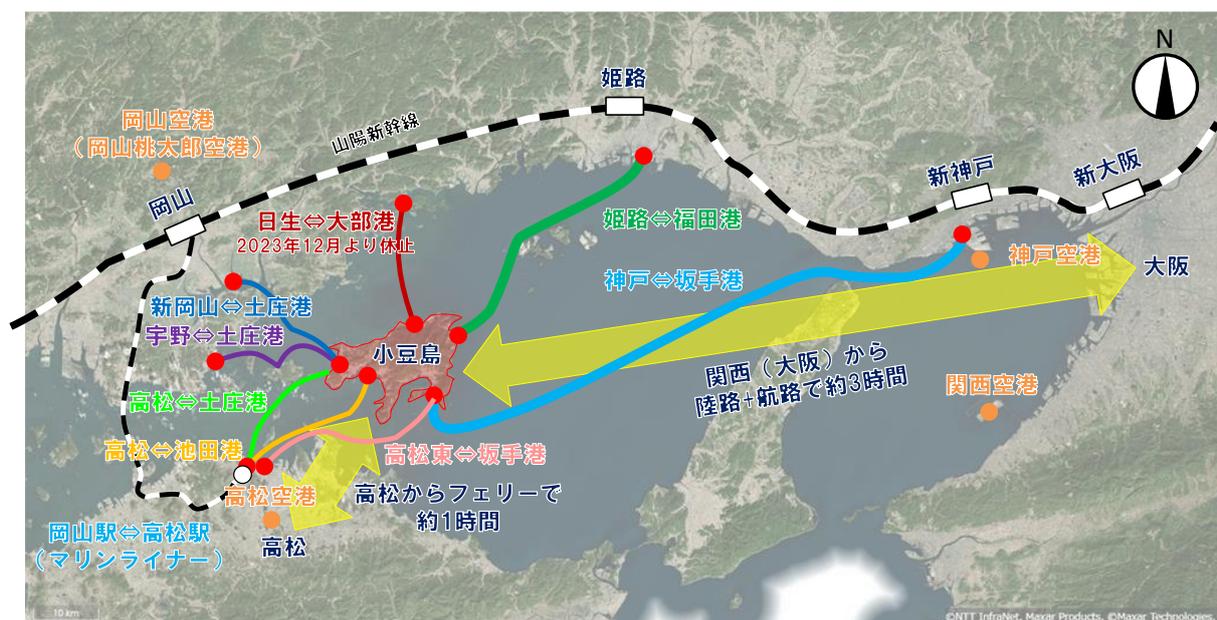


図 2.6-1 小豆島への移動手段

滞在人口の地域別構成割合 都道府県 → 市区町村

香川県小豆島町

2022年7月 休日 14時

総数 総数（15歳以上80歳未満）

滞在人口合計：12,009人（滞在人口率：1.17倍）
（国勢調査人口：10,264人）

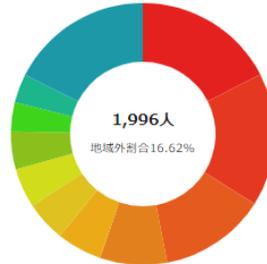
滞在人口 / 都道府県内



滞在人口/都道府県内ランキング 上位10件

- 1位 香川県 10,013人 (100.00%)

滞在人口 / 都道府県外



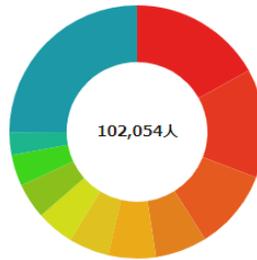
滞在人口/都道府県外ランキング 上位10件

- 1位 兵庫県 349人 (17.48%)
- 2位 大阪府 328人 (16.43%)
- 3位 岡山県 262人 (13.13%)
- 4位 東京都 164人 (8.22%)
- 5位 広島県 111人 (5.56%)
- 6位 京都府 99人 (4.96%)
- 7位 徳島県 97人 (4.86%)
- 8位 埼玉県 93人 (4.66%)
- 9位 愛知県 72人 (3.61%)
- 10位 愛媛県 71人 (3.56%)
- その他 350人 (17.54%)

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合

香川県小豆島町

2022年



- 1位 大阪府 17,279人 (16.93%)
- 2位 東京都 14,207人 (13.92%)
- 3位 兵庫県 10,428人 (10.22%)
- 4位 神奈川県 6,693人 (6.56%)
- 5位 香川県 6,145人 (6.02%)
- 6位 埼玉県 5,213人 (5.11%)
- 7位 愛知県 4,881人 (4.78%)
- 8位 広島県 4,617人 (4.52%)
- 9位 京都府 4,070人 (3.99%)
- 10位 岡山県 2,984人 (2.92%)
- その他 25,537人 (25.02%)

【出典】

観光予約プラットフォーム推進協議会「観光予約プラットフォーム」

【注記】

観光予約プラットフォームでは、日本全体の宿泊実績データのうち、1億3,000万円以上（2019年5月現在）のサンプリングデータ（国内、国内ネット販売、海外向けサイトの販売）を抽出し、宿泊者数の実績データを算出している。

各データ・情報の提供元は非公開としている。

観光予約プラットフォーム推進協議会でのデータ集計を反映し、過去のデータが誤り訂正される場合がある。

宿泊者数が総営業時間中に一定以下の市区町村については、「データ無し」としている。
データの算出方法において、宿泊実績データのサンプリングをもとに拡大推計をして算出していることから、属性別ごとの延べ宿泊者数（総数）の合計値が一致しない場合がある。

出典：「RESAS（地域経済分析システム）」（R5年6月28日利用）

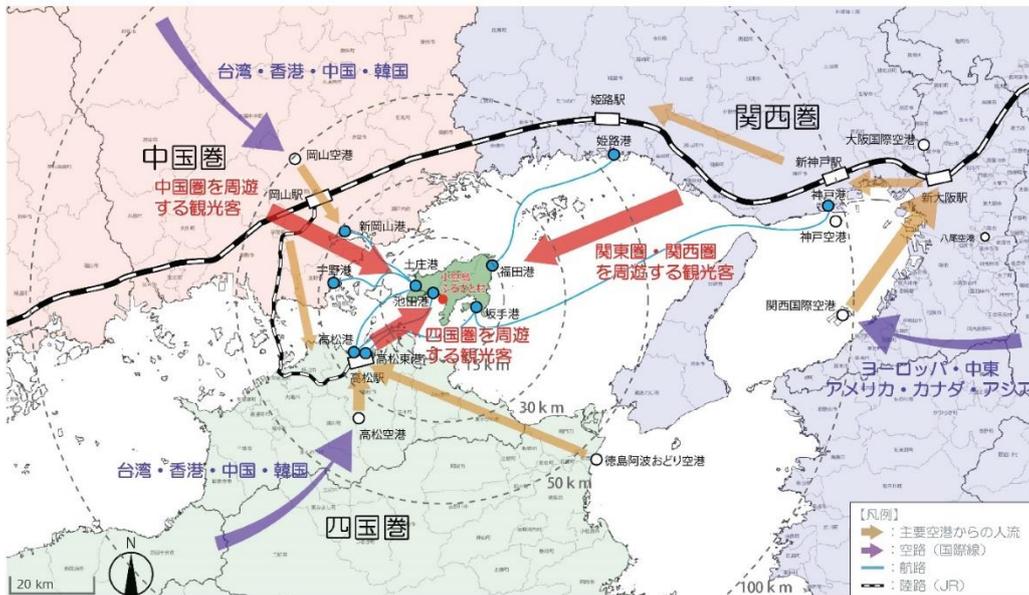
図 2.6-2 滞在人口の地域別構成割合

(2) 需要圏域の設定

小豆島ふるさと村への来訪者として、香川県及び岡山県などの近隣地域からの日帰り観光客の受入増加を図り、個人旅行での利用や休日の余暇利用を促進する。

島全体の課題として、観光客の滞在時間の延長が課題であることから、宿泊利用率が高い関西圏・関東圏からの少人数グループの来訪を促進する。

また、外国人観光客については、世界中の観光客で1年間を通して賑わう「観光の島」を目指し、観光ビジョンの策定を検討する【出典：香川県離島振興計画（小豆島地域振興計画）】こととされており、現状の来島が多い台湾・香港・中国・韓国からの集客を強化しつつ、関西圏との連携強化により瀬戸内エリアを周遊する欧米からの観光客を獲得し、島内での宿泊による滞在時間の延長を促進する。



※空港：八尾空港は、定期便就航なし
徳島阿波おどり空港の札幌便は、8/1～8/31の火・木・土のみ運航

図 2.6-3 国内の需要圏域

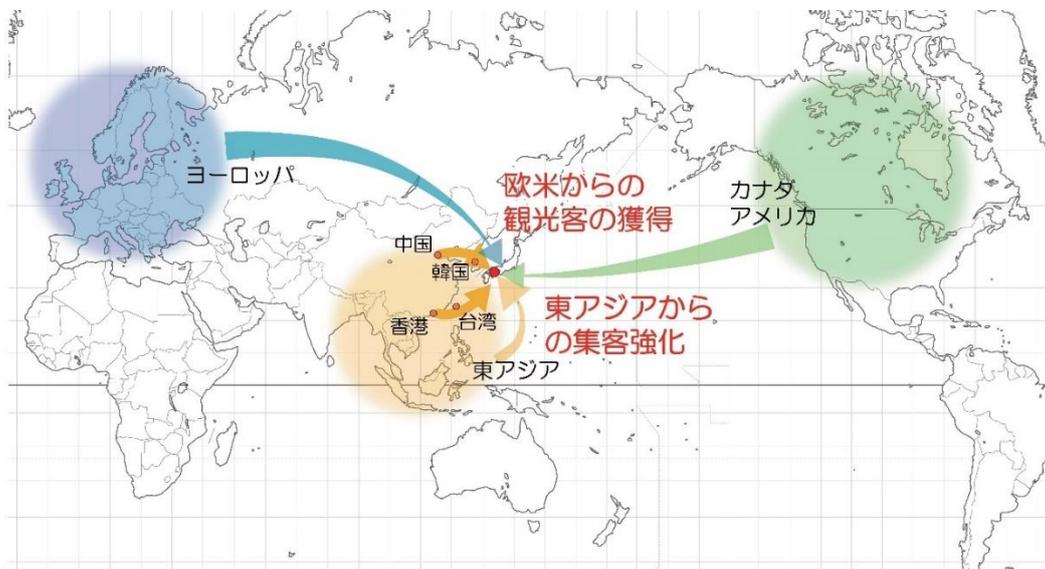


図 2.6-4 インバウンドの需要圏域

2.6.2 利用者層の設定

(1) 現状の利用者層

小豆島全体として、現状は若者やファミリー層の観光客による来島が多いが、利用者の滞在時間の延長や観光消費額の向上に向けて、各施設のターゲット層を明確化する必要がある。

また、キャンプ場やファミリープールは家族連れを中心に利用され、道の駅付近の砂浜からはシーカヤック等のマリンアクティビティを利用できるが、利用時期が夏季中心となっている。さらに、テニスコートやグラウンドなどの体育施設は、島民により日常的に利用する様子が見られ、ふるさと荘内の会議室等は地域の催事・法事等に利用されている。

現状の施設は、様々な需要に対応して都度整備されてきたため、小豆島ふるさと村全体のターゲットや近接する施設間の連携を踏まえた主な利用者層の見直しを行う必要がある。

(2) 小豆島ふるさと村全体のターゲット設定

宿泊利用率や観光消費額が高いインバウンドや若い女性及びミドル世代の利用を促進することにより、施設利用の単価向上を図る。

また、現状も観光閑散期においても継続的な施設利用を維持している、島民の日常利用の利便性も考慮し、小豆島ふるさと村が観光客と周辺地域の交流の場としての役割を發揮する方針とする。

さらに、事業対象区域が広大で高低差も大きいことから、想定される施設形態と、設定した需要圏域を踏まえ、各ゾーンの主な利用者層を設定することで、効果的かつ効率的な整備・運営を実現する。

ミドル世代：35歳～54歳 ※参考：総務省資料（平成26年）

(3) 各ゾーンの主なターゲット設定

小豆島ふるさと村は敷地面積が広く、多様な機能が集積する複合型施設であるため、前節で設定したゾーニングに基づき、対象地の地形や導入機能等の特徴を踏まえた各ゾーンの主なターゲットを下記のとおり設定した。

1) 宿泊ゾーン

主なターゲット：インバウンド、関東圏/関西圏からのカップルや夫婦

アフターコロナで成長が見込まれるインバウンドや、現状も宿泊利用が多い関東圏や関西圏からのカップルや夫婦をターゲットに設定し、小豆島ふるさと村及び小豆島の観光消費額の向上を図るゾーンとする。

2) 体験・滞在ゾーン

主なターゲット：関西圏/中国圏からの若い女性や学生グループ、島民の日常利用

体験・滞在ゾーンは、海に面した広い屋外空間を活かし、関西圏や中国圏からの若い女性や学生のグループを対象とした様々なアクティビティを提供するとともに、島民の日常的な活動の場(サードプレイス)となるゾーンとする。

3) 道の駅・海の駅ゾーン

主なターゲット：中国圏/四国圏からの日帰り観光客、周辺宿泊施設利用者、サイクリスト、島民の日常利用

道の駅・海の駅ゾーンは、中国圏や四国圏など近隣からの日帰り観光客や、小豆島サイクリング(マメイチ)などを目的に来島するサイクリスト、周辺の観光施設利用者による立ち寄り率の向上を図りつつ、これまでどおり島民が日常的に利用し、観光客と島民の交流の場となるゾーンとする。

4) キャンプゾーン

主なターゲット：中国圏/四国圏からの家族連れや学生グループ、島民の休日利用

キャンプゾーンは、中国圏や四国圏から週末に訪れる家族連れや学生グループを対象としつつ、道の駅・海の駅との連携強化や、島民も参加可能な夜間イベント等を実施できるゾーンとする。

宿泊利用率や観光消費額が高いインバウンドや若い女性及びミドル世代の利用を促進する。

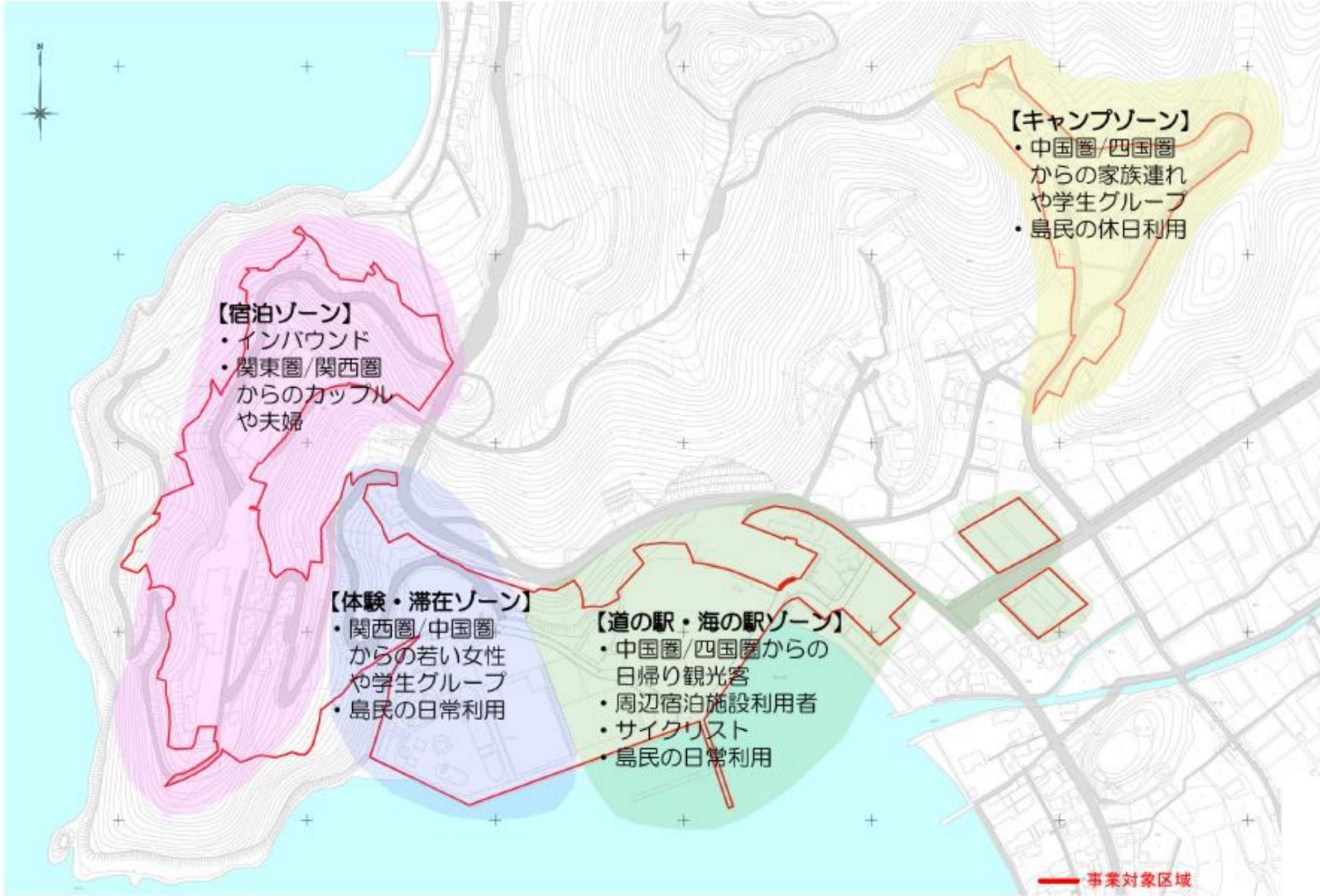


図 2.6-5 各ゾーンにおける主なターゲット設定

(4) 導入機能の検討

1) 既存施設の機能整理

小豆島ふるさと村及び周辺施設の施設状況・利用状況、ヒアリング調査及び市場調査における意見を踏まえ、小豆島ふるさと村の整備で目指す方針を以下のとおり整理した。

表 2.6-1(1) 既存施設の機能とふるさと村における整備方針の整理

導入を検討する機能	小豆島ふるさと村 既存施設		周辺施設（小豆島内）		ふるさと村の整備で目指す方針
	施設名	施設状況・利用状況	施設名等	施設状況・利用状況	
宿泊	国民宿舎「小豆島」	・老朽化 ・団体旅行向けの施設機能 ・人手不足で稼働率を落として営業	ホテル／旅館／公共の宿	・施設老朽化が進んでいる ・団体旅行向けの施設が中心 ・コロナ禍を契機に廃業、人手不足で稼働率低下 ・インバウンドを受入可能な施設が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設は老朽化している ・団体旅行客向けの施設が多く、時代の変化（個人旅行への転換）に対応できていない ・アフターコロナで回復する需要に対応可能な島内の宿泊キャパシティが確保できていない ・インバウンドを受入可能な宿泊施設が少ない <p>➡多様な形態の滞在需要を受入可能な宿泊機能の整備</p>
	ふるさとロッジ	・一部老朽化 ・団体合宿向けの施設機能	民宿／ユースホテル／ゲストハウス	・比較的低価格で1人でも利用できる宿がある ・人手不足で稼働率が低下 ・一部外国人を積極的に受け入れ	
	ファミリーロッジ	・家族連れ向け ・現在は営業していない	ペンション	・臨海部を中心に分布 ・一部休業中	
	キャンプ場	・オートキャンプ／フリーキャンプ／デイキャンプ／トレーラーハウス／キャビン	キャンプ場	・島内に特徴あるキャンプ場が点在	
飲食	喫茶	・道の駅立ち寄り客による利用	カフェ	・地元食材を活かした料理を提供する店舗 ・観光施設周辺に分布	<ul style="list-style-type: none"> ・地元の食材を楽しむことができる店舗が増加しつつあるが、観光客が利用できる飲食店が少なく、昼食難民が発生する ・閉店時間が早い傾向にある <p>➡地元の食材を楽しめる飲食機能の強化 観光客が昼食・夕食・夜間に利用できる飲食機能の整備</p>
	手延そうめん館	・実演・試食の提供	レストラン／食堂	・地元食材を使用した料理を提供 ・地域住民の利用も多い ・閉店時間が早い	
イベント・催事	セミナーハウス	・様々なイベントや体験学習の場として利用	・サン・オリーブ ・産業会館 ・公民館	・会議室や催事・法事を開催可能なホールとして貸し出し ・地域の集会などを開催	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が利用できる屋内スペース ・周辺地域にも類似施設が点在している <p>➡ふるさと村内及び周辺地域における代替機能の検討</p>
	交流センター	・島民による日常利用（催事／法事等）			
	イベント広場	・地域のイベントを実施	ふれあい広場（道の駅小豆島オリーブ公園内）	・写真撮影スポット	
運動	ファミリープール	・施設が老朽化 ・ファミリー層による利用 ・夏季のみ利用	・リゾートホテル内 ・B&G	・ホテル宿泊者が中心の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設は老朽化している ・利用可能時期が限定されるが需要は高い <p>➡ふるさと村内及び周辺地域における代替機能の検討</p>
	テニスコート	・島民による日常利用 ・合宿等での団体利用	・小豆島オリーブ公園 ・B&G	・島民やホテル宿泊者による利用	
	体育館	・島民による日常利用 ・合宿等での団体利用	・中山、池田、福田、内海体育館 ・小中学校の体育館解放	・島民による利用 ・スポーツ大会の誘致	
	グラウンド	・島民による日常利用（パークゴルフ）	・内海総合運動公園 ・高見山公園	・島民による利用 ・スポーツ大会の誘致	
健康増進	国民宿舎大浴場	・宿泊者による利用	オリーブ温泉	・ホテル宿泊者や日帰り観光客による利用	<ul style="list-style-type: none"> ・既存施設は老朽化している <p>➡ふるさと村内での温浴機能の維持、周辺施設との連携強化</p>
	ふるさと荘大浴場	・規模が小さく、老朽化している ・サン・オリーブから温泉を運搬	（満天の湯／サン・オリーブ等）		

表 2.6-1(2) 既存施設の機能とふるさと村における整備方針の整理

導入を検討する機能	小豆島ふるさと村 既存施設		周辺施設（小豆島内）		ふるさと村整備で目指す方針（仮説）
	施設名	施設状況・利用状況	施設名等	施設状況・利用状況	
休憩	道の駅（駐車場・トイレ）	・施設が老朽化	道の駅小豆島オリーブ公園	・駐車場：大型車9台、普通車204台 ・オリーブの魅力を発信 ・若年層を中心にフォトスポット利用	・周辺に特徴的な道の駅が立地 ➡二次交通の拠点機能強化による、周辺の道の駅との差別化
			みなとオアシス 大坂城残石記念公園	・駐車場：30台 ・修羅引き体験 ・大坂城残石資料館	
	交流広場（小豆島ふるさと村公園）	・芝生整備 ・遊具、パーゴラ ・休日に子供連れ利用	・いづみ公園 ・小豆島オリーブ園 ・高見山公園	・家族連れで利用できる遊具やグラウンド ・アスレチック、ジェットスライダーなどの大型遊具	・子ども連れでの利用ができる公園の立地 ➡ふるさと村内及び周辺地域における代替機能の検討
情報発信	道の駅	・島内施設の情報発信（案内板） ・土産物・特産品の販売	小豆島観光協会（オリーブナビ小豆島／土庄港観光案内所）	・小豆島の観光に関する幅広い情報発信	・大型バスでの団体利用や家族旅行などの多様なニーズがある ➡島内の観光の拠点として、周辺観光施設との連携強化
			二十四の瞳映画村	・大型バスでの団体利用 ・映画のセットを利用された多様な滞在・体験が可能な空間 ・オリーブ・ナビから渡し舟での海上アクセスが可能	
散策・展望	遊歩道	・海沿いを散策可能 ・車道と混在 ・敷地内の高低差が大きく	エンジェルロード 迷路の町	・若年層を中心に散策、写真撮影 ・入り組んだ路地を散策しながら買い物ができる店舗が集積	・島内でも有数の夕陽スポット ・周辺観光施設でも海などの自然や歴史文化を感じられる場所の人气が高い ➡海への良好な景観を活かし、ユニバーサルデザインに配慮した施設整備を検討
	国民宿舎駐車場 ※敷地外 ・城山公園展望台 ・弁天島	・池田港への眺望 ・夕陽（日没）の眺望スポット	寒霞渓 中山千枚田	・秋季（紅葉）を中心に集客 ・大型の観光バスでの団体利用 ・散策、飲食、土産物購入も可能 ・日本の棚田百選 ・4月下旬～9月下旬が来訪適期	
	交通拠点	・漁船の利用 ・令和4年6月から一般使用中止	港（フェリー乗り場）	・土庄港／池田港／福田港／坂手港／大部港 ・入込客数は土庄港が大半を占める ・坂手港が2025年ターミナルオープン	
	駐車場	・道の駅：大型4台、普通車45台 ・EV充電スタンド整備済み	レンタカー店 バス停	・土庄港を中心にレンタカー店が分布 ・関西圏・九州圏・関東圏からの観光客の多くがレンタカーを利用	・既存施設の栈橋は海上交通に活用できていない ・レンタカーや電動小型モビリティ、レンタルサイクル等多様な二次交通の可能性があり ➡二次交通の拠点としての機能強化 海上交通の拠点機能の整備
	豆モビ レンタルサイクル	・池田港までの迎車サービスあり ・道の駅管理棟横で貸出	レンタルサイクル	・土庄港・池田港周辺で利用可能	
地域振興	手延素麺館	・実演や試食の提供 ・素麺の提供 ・大型バスでの団体利用受け入れ	小豆島オリーブ園、醬の郷 等	・食材を活かした多彩な商品の販売 ・地場産業の見学・体験ができる	・食品産業に関する見学・体験施設が島内に多く、人気も高い ➡周辺施設と連携を図りながら、島全体の産業振興に向けた体験機能の強化
	ふれあい農園	・いちご狩り ・イベント開催			
管理	小豆島ふるさと村 総合管理棟	・ふるさと村内施設の利用受付	—	—	・施設の一体的な管理運営に至っていない ➡施設利用の利便性向上に向けた役割・配置の見直し
	キャンプ場管理棟	・キャンプ場利用の受付			

2) 導入機能の配置検討

小豆島ふるさと村において導入を検討する機能別に、想定される施設形態とターゲットを検討し、配置するゾーンを整理した。

導入機能の配置に関する整理を以下に示す。

表 2.6-2 導入機能の配置に関する整理

導入を検討する機能	配置検討		
	施設形態	主なターゲット	配置するゾーン
宿泊	宿泊施設（ホテル）	インバウンド／国内旅行の少人数グループ	宿泊ゾーン
	宿泊施設（ヴィラ）		
	キャンプ施設	家族連れ	キャンプゾーン
飲食	レストラン	インバウンド／国内旅行の少人数グループ	宿泊ゾーン
		周辺施設利用者／島民	道の駅・海の駅ゾーン
	カフェ	若い女性	体験・滞在ゾーン
	BBQ	家族連れ	体験・滞在ゾーン
イベント・催事	セミナーハウス	学生グループ	体験・滞在ゾーン
	イベント広場	家族連れ／島民のイベント利用	キャンプゾーン
運動・健康	イベント広場	イベント参加者 島民の日常利用	体験・滞在ゾーン
	温浴施設	国内旅行の少人数グループ／若い女性	宿泊ゾーン
休憩	道の駅駐車場	日帰り観光客 二次交通への乗り換え	道の駅・海の駅ゾーン
	広場	イベント参加者／島民	体験・滞在ゾーン
情報発信	道の駅	日帰り観光客 周辺観光施設利用者	道の駅・海の駅ゾーン
散策・展望	プロムナード	—	道の駅・海の駅ゾーン
			体験・滞在ゾーン
	ビュースポット	—	ふるさと村全体
交通拠点	EV／自動運転モビリティ拠点施設	インバウンド 若年層	道の駅・海の駅ゾーン
	レンタサイクル拠点施設	インバウンド 若年層／ファミリー層	道の駅・海の駅ゾーン
地域振興	魅せる産直施設		道の駅・海の駅ゾーン
	地場産業の体験施設		
管理	管理棟		道の駅・海の駅ゾーン
			キャンプゾーン

2.6.3 利用者数の設定

(1) 基礎情報の再整理

1) 小豆島の観光客数

<現状>

令和4年度の小豆島の県外観光客入込客数は、828,000人となり、前年比23.8%の増加となった。

増加の要因としては、新型コロナウイルス感染症に係る行動制限のない状況が4月以降継続していたこと、瀬戸内国際芸術祭2022が開催されたこと等が考えられる。

表 2.6-3 主要観光地入込客数

(単位：千人)

	令和4年	令和3年	令和3年比	令和元年	令和元年比
栗林公園	504	325	155.0%	783	64.4%
屋島	581	354	164.0%	525	110.8%
琴平	1,765	977	180.7%	2,630	67.1%
小豆島	828	669	123.8%	1,153	71.8%
計	3,678	2,325	158.2%	5,091	72.2%

※令和3年比・令和元年比は千人単位ではなく、人単位で計算した数値

出典：令和4年 香川県観光客動態調査報告(速報版)

<目標>

観光地域づくり法人形成・確立計画において、2020年度～2025年度の旅行消費額／延べ宿泊者数／来訪者満足度／リピーター率の目標値が設定されている。

表 2.6-4 観光地域づくり法人形成・確立計画における目標値設定

指標項目		2020 (R2) 年度	2021 (R3) 年度	2022 (R4) 年度	2023 (R5) 年度	2024 (R6) 年度	2025 (R7) 年度
●旅行消費額 (百万円)	目標			6,858 (343)	9,537 (653)	10,666 (1,459)	12,922 (2,650)
	実績	6,790 (238)	5,879 (25)	()			
●延べ宿泊者数 (千人)	目標			240 (12)	266 (13)	293 (29)	351 (53)
	実績	199 (7)	166 (1)	242 (2)			
●来訪者満足度 (%)	目標			80 (80)	81 (81)	82 (82)	83 (83)
	実績	()	()	80 (-)			
●リピーター率 (%)	目標			50 (2)	38 (2)	39 (3)	40 (4)
	実績	()	()	36.6 (-)			

※()内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※出典：観光地域づくり法人形成・確立計画

2)現状の利用者数（小豆島ふるさと村）

小豆島ふるさと村の利用者数は、コロナ前（2019年）では189,757人／年、コロナ後（2022年）では87,318人／年となっている。

表 2.6-5 施設別既存施設の利用者数

ゾーニング	既存施設	2019年（人／年）		2022年（人／年）	
		利用者数	合計	利用者数	合計
宿泊ゾーン	国民宿舎小豆島	14,593	27,148	10,825	20,119
	ふるさとロッジ小豆島	12,555		9,294	
	ファミリーロッジ				
体験・滞在ゾーン	ワインハウス	4,130	35,612	1,477	13,318
	ファミリープール	9,811		3,795	
	イベント広場	19,726		4,875	
	うみちかふらっと	-		606	
	テニスコート	1,945		2,565	
道の駅・海の駅ゾーン	道の駅	31,621	120,628	14,550	49,001
	釣り桟橋※	2,271		359	
	体育館	4,580		3,332	
	運動場	20,336		6,290	
	喫茶	18,938		16,338	
	交流ふれあい農園	4,155		2,672	
	手延そうめん館	9,581		3,939	
	夢想館	29,146		1,521	
キャンプゾーン	オートキャンプ	3,845	6,369	3,091	4,880
	フリーキャンプ	925		666	
	デイキャンプ	280		58	
	トレーラー	424		414	
	キャビン	895		651	
合計		189,757		87,318	

※釣り桟橋は、2022年6月から利用中止

3) 類似施設の利用者数

整備後の利用者数を推計するため、周辺の観光施設及び島外を含む類似施設の利用者数を整理した。

A) 主要観光施設の利用者数

小豆島町内の主要観光施設の利用者数は以下のとおりである。

表 2.6-6 主要観光施設の入込客数

(人)

施設名	年	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
寒霞溪		311,184	309,669	285,594	280,471	316,193	349,661	320,956	318,948	142,060
岬の分教場		70,315	59,577	56,956	54,433	49,946	47,623	60,219	68,134	26,947
二十四の瞳映画村		209,304	214,316	186,884	198,609	183,734	199,419	195,096	205,656	90,635
オリーブ公園		311,162	352,795	327,635	336,872	345,651	371,189	349,258	388,565	151,912
オートレヅ YOSHIDA		17,240	18,543	17,752	14,009	16,433	17,222	17,016	19,406	12,961
オリーブ園		158,500	161,300	146,100	151,100	144,500	148,500	133,800	133,700	69,100
マルキン醤油記念館		77,697	83,065	75,427	75,841	-	-	-	-	-
小豆島ふるさと村		199,623	169,026	165,211	176,435	193,208	166,941	151,712	194,886	55,181

※マルキン醤油記念館は、2016年1月～無料開館としているため人数把握不可

出典：小豆島町勢要覧 2021 資料編

B) 類似施設の利用者数

本計画で新規機能を導入するにあたり、実現可能な目標利用者数を設定するため、類似施設の参考事例を整理した。参考事例一覧を以下に示す。

表 2.6-7 参考事例一覧

	主な機能	施設名	所在地	利用者数	備考
① 宿泊ゾーン	宿泊	現状の利用者数及び上位計画における目標値をもとに設定		—	
② 体験・滞在ゾーン	BBQ レストラン デイキャンプ	止々呂美「川とBBQのキャンプフィールド」	大阪府 箕面市	4,092	※H30年度実績 デイキャンプ：2,472人 体験学習室：1,465人 会議室：155人
		リバーポートパーク美濃加茂	岐阜県 美濃加茂市	109,789	※H30年度実績 BBQ：20,206人 カフェ：12,324人 イベント：18,550人
③ 道の駅・海の駅ゾーン	道の駅 海の駅 産直市場 加工・体験施設 体験農園 マリンアクティビティ	道の駅 萩シーマート	山口県 萩市	1,400,000	全国「モデル道の駅」
		道の駅 センザキッチン	山口県 長門市	718,620	※H30年度実績
④ キャンプゾーン	オートキャンプサイト トレーラー キャビン フリーサイト	ポロシリ自然公園キャンプ場	北海道 帯広市	6,721	※H30年度実績 民間参入により宿泊利用者数が3.6倍、施設収入が35.8倍に成長 (2015年度～2018年度)

(2) 利用者数の仮説設定

本業務における市場調査を実施するにあたり、再整備後の小豆島ふるさと村全体の利用者数を以下のとおり仮説設定した。

小豆島ふるさと村の現状の利用者数は、コロナ前（2019年）で189,757人/年、コロナ禍（2022年）は87,318人/年であった^{※1}。香川県においては、県外観光客数をコロナ影響前の実績値まで速やかな回復を図る^{※2}こと、小豆島においては令和6年の観光客数を120万人とすることを目標としている^{※3}。

上記を踏まえ、小豆島ふるさと村における全体整備後の利用者数の仮説として、コロナ前の約1.5倍の28.5万人と設定した。この仮説設定をもとに市場調査を実施し、調査結果を踏まえて目標利用者数の見直しを行った。

※1：現状の利用者数は、2019年の施設利用者数（延べ人数）より引用

※2：第2期かがわ創生総合戦略（令和4年3月更新）

※3：第2期小豆島町総合戦略

表 2.6-8 利用者数の仮説設定

現状	エリア	①	②	③	④
	利用状況	宿泊施設エリア	宿泊施設利用者数(延べ) ：27,148人/年 ^{※1} 主な利用者層 ：団体旅行/合宿	体育施設エリア	道の駅・海の駅 エリア 利用者数(延べ) ：120,628人/年 ^{※1} 主な利用者層 ：日帰り/島民
利用者数の設定	(仮説) コロナ前の施設利用者数の1.5倍を想定				
整備後	利用想定	宿泊ゾーン	体験・滞在ゾーン	道の駅・海の駅 ゾーン	キャンプゾーン
	合計	【主な利用者層】 ・インバウンド ・関西圏/関東圏からのカップルや夫婦	【主な利用者層】 ・関西圏/中国圏からの若い女性や学生グループ ・島民の日常利用	【主な利用者層】 ・中国圏/四国圏からの日帰り観光客 ・周辺宿泊施設利用者 ・サイクリスト ・島民の日常利用	【主な利用者層】 ・中国圏/四国圏からの家族連れや学生グループ ・島民の休日利用
		28.5万人/年（延べ人数）			

※1：現状の利用者数は、2019年の施設利用者数（延べ人数）より引用

(3) 利用者数の見直し

1) 算定方法

小豆島ふるさと村は多様な機能を持つ施設が集合した複合型レジャー施設であること、本事業により全面的なリニューアルを行うことを踏まえ、目標利用者数を以下の側面から算定した。

A) 島外から観光で訪れる「小豆島ふるさと村」の利用者（延べ人数）

B) 島内に在住する日常的な利用者

表 2.6-9 利用者数の算定方法

利用想定		参考数値
A) 島外から観光で訪れる「小豆島ふるさと村」の利用者	①宿泊ゾーン	・小豆島の宿泊利用者数に占める割合
	②体験・滞在ゾーン	・類似事例の利用者数
	③道の駅・海の駅ゾーン	・類似事例の利用者数
	④キャンプゾーン	・既存施設の利用者数
B) 島内に在住する日常的な利用者	身近な公園的空間として利用する近隣住民	・街区公園の ha あたり入園者数

2) 目標利用者数の算出

A) 島外から観光で訪れる「小豆島ふるさと村」の利用者

本計画で整備する各ゾーンの目標利用者数を設定した。

各ゾーンの目標利用者数の一覧を以下に、詳細の検討内容を次頁以降に示す。

表 2.6-10 各ゾーンにおける主たる集客施設の目標利用者数

ゾーン名	主たる集客機能	目標利用者数	参考値
①宿泊ゾーン	宿泊機能	28,080 人	・小豆島の宿泊利用者数に占める割合
②体験・滞在ゾーン	飲食機能	60,474 人	・類似事例の利用者数
	アウトドア機能		
③道の駅・海の駅ゾーン	道の駅機能	133,700 人	・類似事例の利用者数
	海の駅機能		
④キャンプゾーン	キャンプ機能	6,369 人	・既存施設の利用者数
合計		228,623 人	

① 宿泊ゾーン

宿泊ゾーンの主たる集客施設は宿泊施設であり、メインターゲットは一般／修学旅行・合宿等である。コロナ禍前にあたる2019年度の小豆島ふるさと村の宿泊施設利用者数は、27,148人であった。

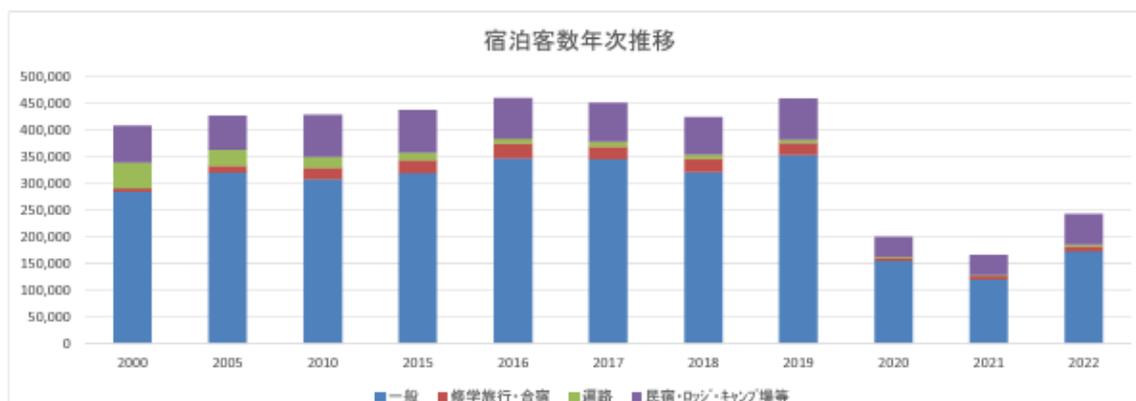
同年の小豆島における宿泊者数に占める小豆島ふるさと村の宿泊利用者数の比率（実績値：5.9%）を踏まえ、小豆島の宿泊施設に宿泊する観光客の約8.0%がふるさと村の宿泊ゾーンを利用する場合を想定し、以下のとおり設定する。

■ 宿泊ゾーンの目標利用者数

- ・ 2019年の利用者比率（ふるさと村の宿泊施設利用者数／小豆島の延べ宿泊者数）
 $= 27,148 / 458,713$
 $= 0.059$ (5.9%)
 ⇒ 目標利用者比率 = 8.0%

- ・ 目標利用者数
 $= \text{小豆島の目標延べ宿泊者数} \times \text{利用者数比}$
 $= 351,000 \times 0.08$
 $= \underline{\underline{28,080 \text{ 人}}}$

< 参考 >



宿泊客数は2021年比で46%の大幅増となったが、コロナ前の2019年と比較するとまだ47%減と非常に厳しい状況が続いている。コロナ禍の3年間で中堅旅館ホテルの廃業が相次ぎ、19年と比較して宿泊定員が約1000名減少したことも大きく響いている。また、スタッフの深刻な人手不足のため繁忙期でも満室ではなく7割程度に稼働を押さえなければいけない施設もあり、宿泊者数伸び悩みの一因ともなっている。民宿、ロジ、キャンプ場は2019年からの回復率が高く、コロナ禍のなかで密を避ける傾向があったことがわかる。

	2000	2005	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
一般	284,722	320,338	307,892	319,084	346,690	345,121	320,964	353,413	155,234	120,582	173,090
修学旅行・合宿	5,912	12,256	21,226	24,245	28,379	23,239	25,094	21,797	5,217	5,887	8,662
道路	47,899	29,973	20,191	14,490	8,037	9,906	8,176	6,740	1,403	1,064	3,242
民宿・ロジ・キャンプ場等	69,647	63,344	78,875	79,599	76,622	72,382	69,437	76,763	37,246	38,305	57,176
計	408,180	425,911	428,184	437,418	459,728	450,648	423,671	458,713	199,100	165,838	242,170

図 2.6-6 小豆島における宿泊客数の推移

出典：2022年小豆島各港別乗降客等調査表

② 体験・滞在ゾーン

体験・滞在ゾーンについては、継続利用の可能性のある既存施設や、新規で導入を検討する機能を踏まえ、主要施設が類似している参考事例をもとに目標利用者数を設定した。

参考事例の b) リバーポートパーク美濃加茂は、施設機能の類似性は高いが、敷地規模が計画面積の約 1.8 倍と大きいため、面積あたりの利用者数を算出し、参考値として用いた。

■ 体験・滞在ゾーンの目標利用者数

- ・ 類似事例の面積あたりの利用者数

$$= 109,789 / 30,000$$

$$= 3.66 \text{ (人/m}^2\text{)}$$

- ・ 目標利用者数

$$= \text{体験・滞在ゾーンの計画面積} \times \text{面積あたりの利用者数}$$

$$= 16,523 \times 3.66$$

$$= \underline{\underline{60,474 \text{ 人}}}$$

< 参考 >

表 2.6-11 体験・滞在ゾーン利用者数の参考指標

参考指標		利用者数(人)	備考
a) 既存施設の利用者数		35,612	【規模】 ・ 16,523 m ²
B. 類 似 事 例	b) リバーポートパーク美濃加茂 (岐阜県美濃加茂市)	109,789	※平成 30 年度実績 【主要施設】 ・ 芝生広場 ・ フリーデッキ、遊歩道 ・ BBQ エリア ・ 更衣室、シャワー ・ イベントエリア ・ ビジターハウス 【規模】 ・ 約 3ha

③ 道の駅・海の駅ゾーン

道の駅・海の駅ゾーンについては、既存施設のほとんどを撤去し新たな機能を導入することから、主要施設が類似している参考事例をもとに目標利用者数を設定した。

参考事例の b) 小豆島オリーブ園は、主要施設の類似性が高く、立地条件や規模も同等であることから、コロナ禍前の 2019 年度の利用者数を参考値として用いた。

■道の駅・海の駅ゾーンの目標利用者数

- ・ 参考事例の利用者数
= 133,700 人
- ・ 目標利用者数
= 参考事例の利用者数
= 133,700 人

表 2.6-12 道の駅・海の駅ゾーン利用者数の参考指標

参考指標		利用者数(人)	備考
a) 既存施設の利用者数		120,628	【規模】 ・ 34,303 m ²
A. 周 辺 施 設	b) 小豆島オリーブ園	133,700	【主要施設】 ・ レストラン ・ 直売店舗 ・ 遊具彫刻 ・ アートギャラリー ・ オリーブ加工場・体験施設 ・ オリーブ農園 【規模】 ・ 約 3ha
B. 類 似 施 設	c) 道の駅センザキッチン (山口県長門市)	718,620	【主要施設】 ・ 農水産物等直売所 ・ グリルハウス ・ 飲食施設 ・ 観光案内所 ・ おもちゃ美術館 ・ プレイガーデン 【規模】 ・ 約 2.1ha

④ キャンプゾーン

キャンプゾーンについては、既存施設の活用（一部改修）を基本として計画することから、a)既存施設の利用者数（コロナ禍前：2019年度）をもとに目標利用者数を設定した。

■ キャンプゾーンの目標利用者数

- ・ 既存施設の利用者数（2019年度）
=6,369人
- ・ 目標利用者数
≒ 既存施設の利用者数（コロナ禍前）
=6,369人

< 参考 >

表 2.6-13 キャンプゾーン利用者数の参考指標

参考指標		利用者数(人)	備考
	a) 過年度の利用者数（2019年度）	6,369	【主要施設】 ・ オートキャンプ 23 サイト ・ フリーキャンプ 13 サイト ・ トレーラーハウス 2 棟 ・ キャビン 4 棟 【規模】 ・ 約 18,000 m ²
A. 周 辺 の 類 似 施 設	b) オートヴィレッジ YOSHIDA	19,406	【主要施設】 ・ オートキャンプ 40 サイト ・ フリーキャンプ 20 帳 ・ ふるさと交流館 ・ 管理事務所、売店、用具レンタル ・ 温浴施設 【規模】 ・ 約 2.9ha
B. 類 似 施 設	c) ポロシリ自然公園キャンプ場 （北海道帯広市）	6,721	【主要施設】 ・ キャンプフィールド ・ パークゴルフ場 ・ モデルハウス「住箱」 【規模】 ・ 約 2.1ha

B) 島内に在住する日常的な利用者

① 身近な公園的空間として利用する近隣住民

「小豆島ふるさと村」における公園的空間は、主として徒歩圏内（室生地区）に居住する住民が日常的に利用することが想定される。このことから、公園的空間として計画している広場は、誘致距離 250m の範囲内で 1 箇所あたり面積 0.25ha を標準として配置する街区公園と同様の性格であると考えられる。また、「小豆島ふるさと村」内の公園的空間である広場 B の面積は約 0.4ha である。

このため、街区公園の ha あたり入園者数（休日 552 人/ha、平日 644 人/ha）をもとにして「小豆島ふるさと村」を身近な公園的空間として利用する近隣住民の年間利用者数を以下のとおり想定した。

表 2.6-14 公園的空間として利用する近隣住民

休日	552 人/ha×0.4ha×121 日	26,814 人/年
平日	644 人/ha×0.4ha×244 日	62,854 人/年
		合計 89,668 人/年

出典：令和 3 年度都市公園利用実態調査報告書をもとに作成

< 参考 >

表 2.6-15 公園別の ha あたり入園者数

		街区	近隣	地区	運動	総合	広域	国営	
平均利用可能面積	ha/ヶ所	0.302	1.620	3.877	16.910	17.370	50.106	135.532	
平均入園者数	休日	人/ヶ所	167	668	1,009	3,382	2,772	4,269	6,862
	平日	人/ヶ所	194	677	730	1,646	1,574	1,995	2,098
haあたり入園者数	休日	人/ha	552	412	260	200	160	85	51
	平日	人/ha	644	418	188	97	91	40	15
平均在園時間※1	時間	0.86	0.98	1.25	2.00	1.42	1.81	1.85	
平均在園時間※2	休日	時間	0.96	1.04	1.79	2.32	1.28	2.00	2.24
	平日	時間	0.91	0.85	1.03	0.89	0.99	2.23	1.51
平均到達時間※3	分	13.9	18.7	21.9	28.4	30.6	38.1	67.2	
80%到達時間※4	分	18.3	24.6	27.6	41.5	42.7	88.5	107.2	
平均来園頻度※5	回/月	10.0	9.1	8.0	7.4	6.4	4.6	0.9	
リピーター率	%	90.4	89.4	91.1	93.6	89.2	88.2	74.7	
散歩・自転車利用率	%	79.2	62.3	50.5	32.1	32.2	16.4	7.5	
自動車利用率	%	23.6	17.6	14.2	11.4	9.6	7.3	4.3	

出典：令和 3 年度都市公園利用実態調査報告書

(4) 目標利用者数の設定

前述の整理を踏まえ、各ゾーンの利用者数の想定及び身近な公園的空間として利用する近隣住民を合わせた利用者数の想定は、31.8万人／年として設定した。

表 2.6-16 各ゾーンにおける目標利用者数の設定

現 状	エ リ ア	宿泊施設エリア	体育施設エリア	道の駅・海の駅 エリア	キャンプ場 エリア
	利 用 状 況	利用者数(延べ) : 27,148 人/年 ^{※1} 主な利用者層 : 団体旅行/合宿	利用者数(延べ) : 35,612 人/年 ^{※1} 主な利用者層 : 島民/合宿	利用者数(延べ) : 120,628 人/年 ^{※1} 主な利用者層 : 日帰り/島民	利用者数(延べ) : 6,369 人/年 ^{※1} 主な利用者層 : 団体旅行/合宿



整 備 後	ゾ ー ン	宿泊ゾーン	体験・滞在 ゾーン	道の駅・海の駅 ゾーン	キャンプゾーン
	主 な 施 設	・ 宿泊施設 ・ 飲食施設	・ 飲食施設 ・ BBQ 広場 ・ 駐車場	・ 道の駅 ・ 海の駅	・ キャンプ施設
	利 用 者 層	【主な利用者層】 ・ インバウンド ・ 関西圏/関東圏 からのカップル や夫婦	【主な利用者層】 ・ 関西圏/中国圏 からの若い女 性や学生グル ープ ・ 島民の日常利用	【主な利用者層】 ・ 中国圏/四国圏 からの日帰り 観光客 ・ 周辺宿泊施設利 用者 ・ サイクリスト ・ 島民の日常利用	【主な利用者層】 ・ 中国圏/四国圏 からの家族連 れや学生グル ープ ・ 島民の休日利用
	利 用 者 数 ※2	28,000 人/年	60,000 人/年	134,000 人/年	6,000 人/年
	合 計	身近な公園的空間として利用する近隣住民 : 90,000 人/年			

※1 : 現状の利用者数は、2019年の施設利用者数(延べ人数)より引用

※2 : 目標利用者数、近隣住民の利用の数値は、推計結果をもとに百人以下を四捨五入

2.7 ゾーニング及び機能の整理

2.7.1 ゾーニング設定

小豆島ふるさと村の既存施設及び各ゾーンの整備方針を踏まえ、ゾーニングを設定した。ゾーニング図を以下に示す。



図 2.7-1 ゾーニング図

2.7.2 各ゾーンに整備する施設の検討

ここまでに設定した利用者層、利用者数、アクセス・動線を踏まえ、各ゾーンの空間構成の方針を設定した。

小豆島ふるさと村の眺望や自然環境などのポテンシャルを最大限に活かしつつ、整備後の事業運営や施設管理の効率化も重要であることから、市場調査における民間事業者の意見を参考とした。

なお、既存施設のうち本事業で撤去する施設の機能については、町内の他施設にて機能を代替する。

小豆島ふるさと村全体及び各ゾーンにおける空間構成方針は、以下のとおり。

表 2.7-1 空間構成の方針

現状		<ul style="list-style-type: none"> 海への眺望や自然環境などのポテンシャルが高い 様々な施設が混在し一体的・効率的な活用に至っていない 施設の老朽化が著しく、再整備や建て直しが必要である
	全体	<ul style="list-style-type: none"> 海への眺望や自然環境を最大限に活かす施設配置とする ソフト面の運用を見据えて動線に考慮した施設配置とする 民間活力の導入による施設の再整備を積極的に検討する
方針	宿泊ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 海や池田港への眺望が良い場所に宿泊機能を配置する 宿泊利用者以外にも夕陽を楽しみ滞在できる場として、飲食機能を配置する エントランスエリアは交通手段の乗り換え地点に位置付け、ゾーンの入り口に配置する
	体験・滞在ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 海への眺望が良い高台に飲食機能を配置し、宿泊ゾーンとの連続性を高める 海側にはイベント開催や屋外での滞在が可能となる機能を配置する 内陸側には車道の新設し、駐車場と多様な移動手段への乗り換え地点を配置する
	道の駅・海の駅ゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 海側は歩行者中心の散策・滞在機能を帯状に配置し、隣接施設との繋がりを強化し、老朽化施設は再配置する 道の駅周辺は本施設の顔となるメインエントランスとして整備し、島内二次交通への乗り換え地点に位置付ける
	キャンプゾーン	<ul style="list-style-type: none"> 既存のキャンプ施設の配置を活かしながら、海側への眺望を活かした機能配置を検討する まとまった平地にはイベント機能をもつ広場やフリースペースを配置することで、キャンプ宿泊者以外の利用を促進する

(1) エリア設定

これまでの検討を踏まえて各ゾーン内のエリア区分を以下のとおり整理した。

表 2.7-2 各ゾーンのエリア区分

ゾーン	エリア	エリアの整備方針	面積 (㎡)
宿泊ゾーン	宿泊エリア①	インバウンドの高付加価値旅行者や夫婦、カップルの滞在空間を担い、高質な宿泊サービスを提供するエリア	3,468
	宿泊エリア②	周辺の環境や施設と調和し、小豆島ふるさと村内の多様な機能を楽しみながら滞在できるエリア	2,824
	宿泊エリア③	敷地の高低差を活かした空間とし、他ゾーンの利用者も気軽に立ち寄り眺望を楽しむことができるエリア	8,462
	エントランスエリア①	当該ゾーンに滞在する宿泊利用者を迎え入れ、小豆島ふるさと村の魅力の1つである夕陽の眺めを提供するエリア	2,148
	レストラン・カフェエリア①	海への眺望や、小豆島魅力を活かした食事を提供するエリア	1,518
		合計	
体験・滞在ゾーン	レストラン・カフェエリア②	高台から海への眺望を活かし、地元食材を使った食事を楽しみながら多世代が滞在できるエリア	3,206
	BBQ エリア	島内を周遊するファミリー層による昼食利用や、島民の休日余暇利用を担うエリア	2,247
	アウトドアエリア	小豆島の温暖な気候を活かし、屋外で長時間過ごすことができる多様な滞在体験を提供するエリア	5,037
	イベントエリア	周辺住民の日常的な運動利用や子どもの遊び場、地域のPR イベントやナイトコンテンツの開催場所を担う天候に関らず利用しやすいエリア	7,024
	駐車場エリア	体験・滞在ゾーンのメイン駐車場として、必要な駐車台数を確保し、敷地内移動モビリティの乗換拠点も担うエリア	3,181
		合計	
道の駅・海の駅ゾーン	魅せる産直・加工場体験エリア	「道の駅」「海の駅」の機能として、地場産業の商品販売や見学・体験による情報発信、産業の発展に向けたインキュベーション機能を担うエリア	14,943
	プロムナードエリア	観光客や島民が海を身近に感じながら、ゆったりと散策を楽しむエリア	5,826
	体験農園エリア	多世代が楽しめるいちご狩りやマリンスポーツなどの体験型アクティビティを提供するとともに、小豆島の特産品をPRするエリア	5,988
	親水アクティビティエリア		5,170
	エントランスエリア②	小豆島ふるさと村のメイン入口として、利用者を迎え入れるエリア	3,636
	合計		35,562
キャンプゾーン	キャンプエリア①	中国圏／四国圏からの家族連れが、オートキャンプやキャビンに宿泊する体験ができるエリア	3,511
	キャンプエリア②	学生グループや単身での来島者が、フリーキャンプを中心に気軽にキャンプを楽しむことができるエリア	1,717
	フリーエリア	昼間はキャンプ利用者の休憩スペースや遊び場として、夜間はナイトコンテンツで多様なキャンプ利用者が滞在できるエリア	4,175
	エントランスエリア③	キャンプゾーンのエントランスとして、現状の管理施設の利便性向上を図り、モビリティの乗換拠点等を担うエリア	1,284
		合計	

※各エリアの面積は地図上から求積しており、次頁以降の計画施設の合計面積とは一致しない。

(2) 計画施設の諸元

各ゾーンに配置するエリアの整備方針を踏まえ、各エリアに整備する施設の整備方法、機能、形式、規模を以下のとおり整理した。

① 宿泊ゾーン

表 2.7-3(1) 計画施設の諸元 (宿泊ゾーン)

ゾーン	エリア	施設	整備方法	機能	形式	規模 (㎡)	備考
宿泊 ゾーン	宿泊エリア①	宿泊棟①	新設	宿泊	ヴィラ形式、屋外木製デッキ、客室露天風呂付	1,600	200 ㎡×8 棟
		レストラン・レセプション棟	新設	受付/飲食	-	360	宿泊棟①用の施設
		舗装	新設	-	As 舗装	3,000	-
	エントランスエリア①	駐車場 A	新設	駐車場	As 舗装	1,300	3 台
		展望デッキ①	新設	眺望	木製デッキ	300	-
	レストランカフェエリア①	飲食店	改修又は新設	飲食	カフェ・レストラン	-	※面積は宿泊棟②に含む
	宿泊エリア②	宿泊棟②	改修又は新設	宿泊	浴室等の充実、カフェ・レストラン	1,376	既存施設を改修又は新設
		駐車場 B	新設	駐車場	As 舗装	750	22 台
	宿泊エリア③	宿泊棟③	改修又は新設	宿泊	内外装改修、コテージ型施設	545	11 棟、既存施設を改修又は新設
		駐車場 C	新設	駐車場	As 舗装	130	7 台
		展望デッキ②	新設	眺望	木製デッキ	50	-
		展望デッキ③	新設	眺望	木製デッキ	50	-

② 体験・滞在ゾーン

表 2.7-3(2) 計画施設の諸元 (体験・滞在ゾーン)

ゾーン	エリア	施設	整備方法	機能	形式	規模 (㎡)	備考
体験・ 滞在 ゾーン	アウトドアエリア	広場 A	新設	広場	芝張、一部 As 舗装	6,500	-
		デイキャンプ管理棟	新設	管理棟	木造平屋建て	100	-
	レストランカフェエリア②	レストラン棟	新設	飲食	木造平屋建て、屋外木製デッキ	450	-
		駐車場 D	新設	駐車場	As 舗装	2,400	42 台
	BBQ エリア	炊事場	新設	炊事場	木造平屋建て	140	-
		BBQ 広場	新設	BBQ	芝張	-	※面積は広場 A に含む
	イベントエリア	イベントテント広場	既存	広場	-	-	既存施設を活用、雨天時も利用可能
		オリビアンシアター	既存	シアター	-	-	既存施設を活用
		ワインハウス	既存	管理棟	-	-	既存施設を活用
	駐車場エリア	駐車場 E	新設	駐車場	As 舗装	3,800	60 台
		RV パーク	新設	移動モビリティ用駐車場	As 舗装	-	6 台 ※面積は駐車場 E に含む

③ 道の駅・海の駅ゾーン

表 2.7-3(3) 計画施設の諸元（道の駅・海の駅ゾーン）

ゾーン	エリア	施設	整備方法	機能	形式	規模(m ²)	備考
道の駅 ・ 海の駅 ゾーン	魅せる産直・加工場体験エリア	場内道路	新設	車用道路	As 舗装	3,000	-
		駐車場 F	新設	駐車場	As 舗装	4,800	125 台
		広場 B	新設	広場	芝張、一部遊具設置	3,900	-
		道の駅	新設	物販	木造平屋建て、木製デッキ含む	2,000	-
		水産加工場	新設	加工場	木造2階建て、木製デッキ含む	600	-
	プロムナードエリア	歩行者プロムナード	新設	歩行者用通路	インターロッキング舗装	2,600	-
		栈橋	改修	船舶係留	防波堤、浮栈橋	-	浮栈橋 L=73m
		管理棟	新設	エントランス	木造平屋建て	250	-
		艇庫	新設	倉庫	木造平屋建て	100	-
	親水アクティビティエリア	砂浜	既存	-	-	-	-
	エントランスエリア②	広場 C	新設	広場	芝張	950	-
		駐車場 G	新設	駐車場	As 舗装	850	7 台（内大型 4 台）、ロータリー含む
		駐車場 H	新設	駐車場	As 舗装	450	4 台
		並木道	新設	歩行者用通路	インターロッキング舗装	1,850	-
	体験農園エリア	交流ふれあい農園管理棟	既存	管理棟	-	-	既存施設を活用
		いちごハウス	既存	農業体験施設	-	-	既存施設を活用

④ キャンプゾーン

表 2.7-3(4) 計画施設の諸元（キャンプゾーン）

ゾーン	エリア	施設	整備方法	機能	形式	規模(m ²)	備考
キャンプ ゾーン	エントランスエリア③	管理棟	改修	管理棟	内外装改修	117	既存施設を改修又は新設
		シャワー室	改修	衛生	内外装改修	16	既存施設を改修又は新設
		駐車場 I	新設	駐車場	As 舗装	200	11 台
	キャンプエリア①	トイレ・シャワー	既存	衛生	-	-	15 棟 ※既存施設を活用
		炊事場	既存	炊事場	-	-	15 棟 ※既存施設を活用
		ログハウス	既存	宿泊	-	-	4 棟 ※既存施設を活用
	キャンプエリア②	トイレ・シャワー	既存	衛生	-	-	5 棟 ※既存施設を活用
		炊事場	既存	炊事場	-	-	5 棟 ※既存施設を活用
	フリーエリア	炊事場	既存	炊事場	-	-	既存施設を活用
		BBQ	既存	飲食	-	-	既存施設を活用
		トイレ	既存	衛生	-	-	既存施設を活用
トレーラーハウス		既存	宿泊	-	-	2 棟 ※既存施設を活用	

2.8 各ゾーンの空間構成及び整備水準

2.8.1 各ゾーンの空間構成

(1) 宿泊ゾーン

これまでの検討を踏まえて、宿泊ゾーンに整備する施設の仕様／機能を検討し、空間構成イメージを整理した。

表 2.8-1(1) 宿泊ゾーンの空間構成イメージ

宿泊ゾーン空間構成	
<p>宿泊エリア① インバウンドの高付加価値旅行者や夫婦、カップルの滞在空間を担い、高質な宿泊サービスを提供するエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヴィラ形式の宿泊棟（プライベート空間） ・客室／露天風呂（十分な広さ/眺望を確保） ・食事処（地元食材を活かした食事提供） 	
<p>エントランスエリア① 当該ゾーンに滞在する宿泊利用者を迎え入れ、ふるさと村の魅力の1つである夕陽の眺めを提供するエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夕陽デッキ ・サイクルラック/モビリティ乗降場 ・駐車場（宿泊利用者専用） 	
<p>レストランカフェエリア① 海への眺望や、小豆の魅力を活かした食事を提供するエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食店（宿泊利用者・島民が利用可能） ※既存施設の活用または解体撤去・新設 	
<p>宿泊エリア② 周辺の環境や施設と調和し、ふるさと村内の多様な機能を楽しみながら滞在できるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平屋建ての宿泊施設 ※既存施設の活用または解体撤去・新設 ・温浴施設（日帰り利用可能） 	
<p>宿泊エリア③ 敷地の高低差を活かした空間とし、他ゾーンの利用者が気軽に立ち寄り眺望を楽しむことができるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コテージ型宿泊施設 ※既存施設の活用または解体撤去・新設 ・ビュースポット 	

(2) 体験・滞在ゾーン

これまでの検討を踏まえて、体験・滞在ゾーンに整備する施設の仕様／機能を検討し、空間構成イメージを整理した。

表 2.8-1(2) 体験・滞在ゾーンの空間構成イメージ

体験・滞在ゾーンの空間構成	
<p>レストランカフェエリア② 高台から海への眺望を活かし、地元食材を使った食事を楽しみながら多世代が滞在できるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レストラン（海が見える窓、地元食材の提供） ・カフェ（窓辺のカウンター、テラス席） ・駐車場（エリア利用者用） 	
<p>BBQ エリア 島内を周遊するファミリー層による昼食利用や、島民の休日余暇利用を担うエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BBQ 施設（全天候型） ・調理場（産直で購入した食材を調理可能） ・レンタル、物販施設 	
<p>アウトドアエリア 小豆島の温暖な気候を活かし、屋外で長時間過ごすことができる多様な滞在体験を提供するエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芝生広場（屋外の遊び場として利用） ・水場 ※既存プール施設の活用も想定 ・テントサウナ／デイキャンプ 	
<p>イベントエリア 周辺住民の日常的な運動利用や子どもの遊び場、地域の PR イベントやナイトコンテンツの開催場所を担う天候に関らず利用しやすいエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開閉式屋根付きの芝生広場 ※既存施設の活用 ・倉庫（スポーツ用具やイベント資材用） ・可動式遊具 ・コワーキングスペース など 	
<p>駐車場エリア 体験・滞在ゾーンのメイン駐車場として、必要な駐車台数を確保し、敷地内移動モビリティの乗換拠点も担うエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場 ・RV パーク 	

(3) 道の駅・海の駅ゾーン

これまでの検討を踏まえて、道の駅・海の駅ゾーンに整備する施設の仕様／機能を検討し、空間構成イメージを整理した。

表 2.8-1(3) 道の駅・海の駅ゾーンの空間構成イメージ

道の駅・海の駅ゾーンの空間構成	
<p>エントランスエリア② 小豆島ふるさと村のメイン入口として、利用者を迎え入れるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場 (大型用駐車場、EV 自動車充電設備含む) ・ 並木道/芝生広場 ・ 総合管理棟 (海の駅の管理機能を兼ねる) 	
<p>体験農園／親水アクティビティエリア 多世代が楽しめるいちご狩りやマリンスポーツなどの体験型アクティビティを提供するとともに、小豆島の特産品をPR するエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 砂浜 (既存：シーカヤックや SUP の拠点) ・ シャワー/更衣室 (多様な来訪者が利用) ・ 交流ふれあい農園 (いちご狩りの体験) 	
<p>プロムナードエリア 観光客や島民が海を身近に感じながら、ゆったりと散策を楽しむエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者プロムナード ・ ベンチ/パーゴラ ・ 護岸/栈橋 (釣り等) /マリーナ(係留施設) /その他 (EV 船充電設備など) 	
<p>魅せる産直・加工場体験エリア 「道の駅」「海の駅」の機能として、地場産業の商品販売や見学・体験による情報発信、産業の発展に向けたインキュベーション機能を担うエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 産直市場 (小豆島特産品の販売) ・ 地域産業拠点 (加工場、地場産業の体験施設) ・ 屋外通路 (天候の影響を受けずに移動) ・ 駐車場/ 芝生広場 	

(4) キャンプゾーン

これまでの検討を踏まえて、キャンプゾーンに整備する施設の仕様／機能を検討し、空間構成イメージを整理した。

表 2.8-1(4) 道の駅・海の駅ゾーンの空間構成イメージ

キャンプゾーンの空間構成	
<p>エントランスエリア③ キャンプゾーンのエントランスとして、現状の管理施設の利便性向上を図り、モビリティの乗換拠点等を担うエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■管理棟（改修） <ul style="list-style-type: none"> ・機能：キャンプ利用者受付 ・規模：129.75 m²（既存） ■交通広場（改修） <ul style="list-style-type: none"> ・機能：交通モビリティ乗換 	
<p>キャンプエリア① 中国圏／四国圏からの家族連れが、オートキャンプやキャビンに宿泊する体験ができるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートキャンプ場 <ul style="list-style-type: none"> ※既存施設の活用または解体撤去・新設 ・キャビン <ul style="list-style-type: none"> ※既存施設の活用または解体撤去・新設 	
<p>キャンプエリア② 学生グループや単身での来島者が、フリーキャンプを中心に気軽にキャンプを楽しむことができるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広場（フリーキャンプも可能） ・オートキャンプ場 <ul style="list-style-type: none"> ※既存施設の活用または解体撤去・新設 	
<p>フリーエリア 昼間はキャンプ利用者の休憩スペースや遊び場として、夜間はナイトコンテンツで多様なキャンプ利用者が滞在できるエリア</p> <p>【施設の仕様／機能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BBQ ブース <ul style="list-style-type: none"> ※既存施設の活用または解体撤去・新設 ・ファイヤーサークル（キャンプファイヤー） ・ナイトバー 	
<p>エントランスエリア③</p>	

2.8.2 整備水準の設定

各ゾーンの整備基本方針及び主な利用者層を踏まえ、ゾーン全体の整備水準を以下のとおり設定した。

表 2.8-2 各ゾーンの整備水準

ゾーン	整備基本方針	主な利用者層	空間構成（エリア設定）	観点	整備水準
宿泊ゾーン	民間活力を最大限活用し、小豆島随一の体験を提供する機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド ・関西圏/関東圏からのカップルや夫婦 	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスエリア① ・宿泊エリア① ・宿泊エリア② ・宿泊エリア③ ・レストランカフェエリア① 	景観	・島内随一の夕陽スポットとしての池田港方面への眺めを活かした施設配置とする
				調和	・池田港に入港するフェリーからの景観に配慮し、周辺環境と調和した建物の色彩・高さ等を設定する
				保全	・現況の自然環境や地形を保全する
				施設	・宿泊者専用施設と宿泊者以外も利用できる施設等、利用者特性を踏まえた施設整備とし、宿泊体験の高質化を図る
体験・滞在ゾーン	陸と海の新たなアクティビティ拠点となる機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・関西圏/中国圏からの若い女性や学生グループ ・島民の日常利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアエリア ・BBQ エリア ・レストランカフェエリア② ・イベントエリア ・駐車場エリア 	景観	・海側に開けた施設配置とし、弁天島を望む海への眺望を活かす
				調和	・栈橋にアクセスするヨットや、池田港に入港するフェリーからの景観に配慮した施設の色彩・高さを設定する
				施設	・植栽や屋根の形状や配置等で日陰をつくり、屋外でも長時間過ごしやすい空間構成とする
				保全	・現況の地形を保全しつつ、高台から海までの高低差を緩やかにつなぎ、ゾーン内の一体性を確保する
道の駅・海の駅ゾーン	観光・交通及び産業のハブとして、小豆島の情報と魅力の発信拠点となる機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・中国圏/四国圏からの日帰り観光客 ・周辺宿泊施設利用者 ・サイクリスト ・島民の日常利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスエリア② ・プロムナードエリア ・魅せる産直・加工場体験エリア ・親水アクティビティエリア ・体験農園エリア 	景観	・海側に人中心の空間を配置し、海、弁天島、三都半島への眺望を確保する
				調和	・地域集落の街並みや、海辺景観に配慮した色彩や施設形態とする
				施設	・道の駅、海の駅としての登録要件施設を維持しつつ、当該ゾーン及びふるさと村のエントランスとしての役割を果たす施設・機能とする
キャンプゾーン	『道の駅・海の駅』と連携し、新たな商品開発やイベント等が可能となる機能の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・中国圏/四国圏からの家族連れや学生グループ ・島民の休日利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプエリア① ・キャンプエリア② ・フリーエリア ・エントランスエリア③ 	施設	・既存施設を活かしながら、現在利用されていないスペースを有効活用した施設配置とする
					・夜間も安全に利用できるよう、明るさや視認性を確保する
				保全	・城山公園との連続性を確保し、現況の自然環境や地形を保全する

2.8.3 各ゾーンにおける整備イメージの整理

(1) 宿泊ゾーン

宿泊ゾーンは、整備基本方針を「民間活力を最大限活用し、小豆島随一の体験を提供する機能の整備」としており、主な利用者層には「インバウンド、関東圏/関西圏からのカップルや夫婦」を設定している。

これらを踏まえ、宿泊ゾーン全体の整備水準について以下のように設定した。

表 2.8-3 宿泊ゾーンの整備水準

配慮事項	整備水準
景観	・ 島内随一の夕陽スポットとしての池田港方面への眺めを活かした施設配置とする
調和	・ 池田港に入港するフェリーからの見え方に配慮し、周辺環境と調和した建物の色彩・高さ等を設定する
保全	・ 現状の自然環境や地形を保全する
施設	・ 宿泊利用者専用施設と、宿泊利用者以外も利用できる施設等、利用者特性を踏まえた施設整備とし、宿泊体験の高質化を図る

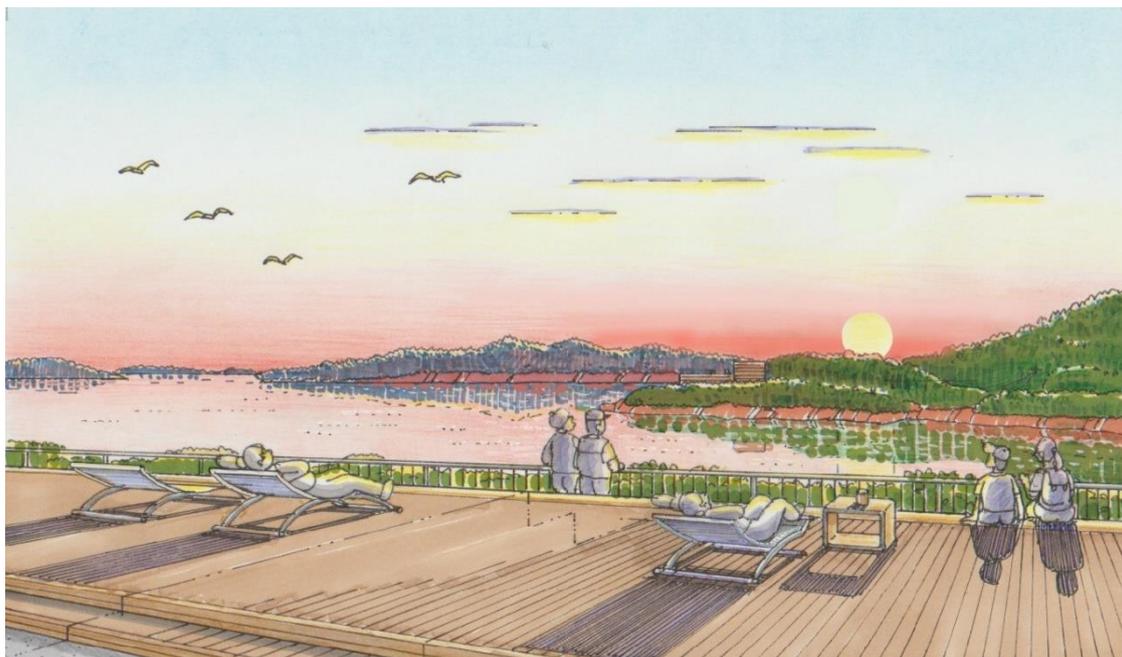


図 2.8-1 宿泊ゾーン（夕陽デッキ）整備イメージ

(2) 体験・滞在ゾーン

体験・滞在ゾーンは、整備基本方針を「陸と海の新たなアクティビティ拠点となる機能の整備」としており、主な利用者層には「関西圏/中国圏からの若い女性や学生グループ、島民の日常利用」を設定している。

これらを踏まえ、宿泊ゾーン全体の整備水準について以下のように設定した。

表 2.8-4 体験・滞在ゾーンの整備水準

配慮事項	整備水準
景観	・海側に開けた施設配置とし、弁天島を望む海への眺望を活かす
調和	・浅橋にアクセスするヨットや、池田港に入港するフェリーからの見え方に配慮した施設の色彩・高さを設定する
保全	・現状の地形を保全しつつ、高台から海までの高低差を穏やかにつなぎ、ゾーン内の一体性を確保する
施設	・植栽や屋根の形状や配置等で日陰をつくり、屋外でも長時間過ごしやすい空間整備とする

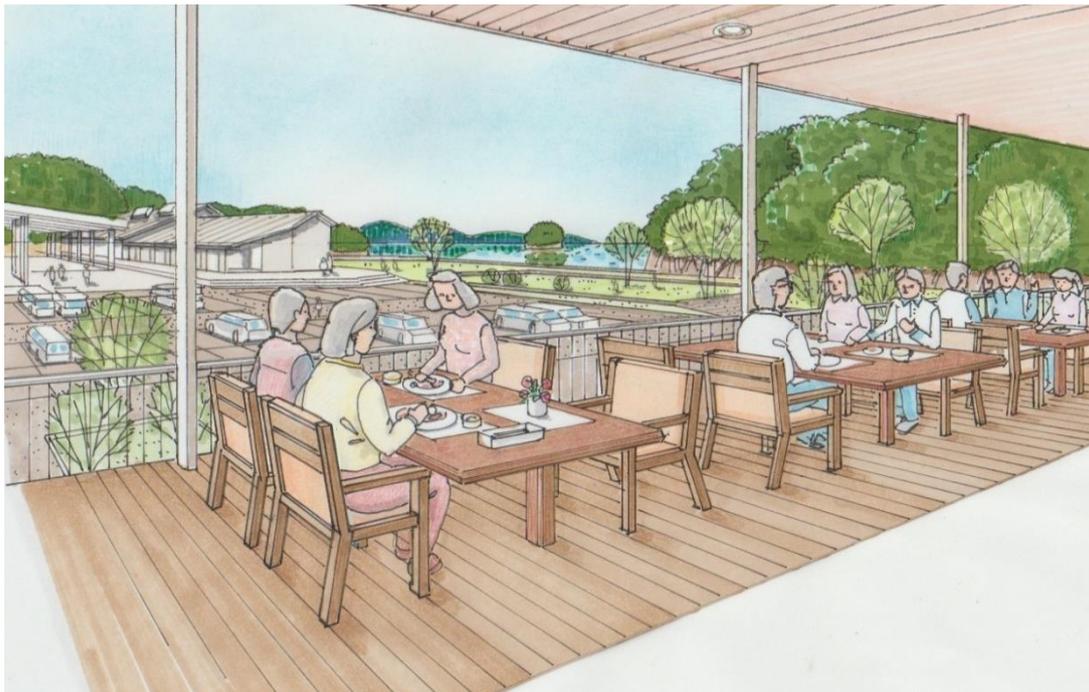


図 2.8-2 体験・滞在ゾーン（レストラン）整備イメージ

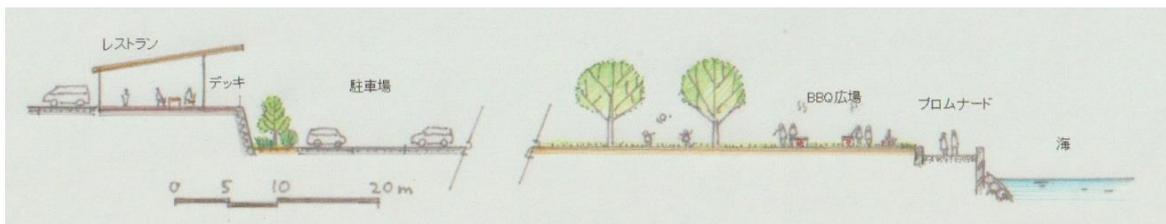


図 2.8-3 体験・滞在ゾーン断面イメージ

(3) 道の駅・海の駅ゾーン

道の駅・海の駅ゾーンは、整備基本方針を「観光・交通及び産業のハブとして、小豆島の情報と魅力の発信拠点となる機能の整備」としており、主な利用者層には「中国圏/四国圏からの日帰り観光客、周辺宿泊施設利用者、サイクリスト、島民の日常利用」を設定している。

これらを踏まえ、宿泊ゾーン全体の整備水準について以下のように設定した。

表 2.8-5 道の駅・海の駅ゾーンの整備水準

配慮事項	整備水準
景観	・海側に人中心の空間を配置し、海、弁天島、三都半島への眺望を確保する
調和	・地域集落のまち並みや、海辺景観に配慮した色彩や施設形態とする
施設	・道の駅、海の駅としての登録要件施設を維持しつつ、当該ゾーン及びふるさと村のエントランスとしての役割を果たす施設・機能とする



図 2.8-4 道の駅・海の駅ゾーン（エントランス）整備イメージ

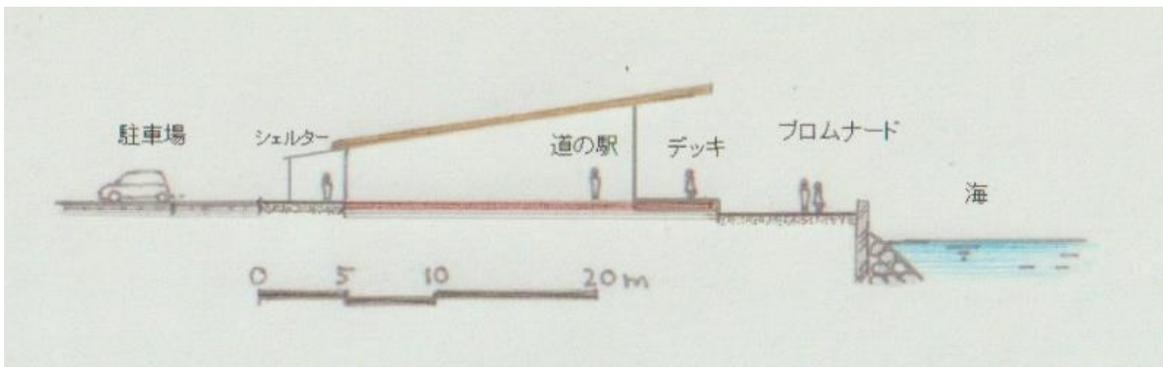


図 2.8-5 道の駅・海の駅ゾーン断面イメージ

(4) キャンプゾーン

キャンプゾーンは、整備基本方針を『道の駅・海の駅』と連携し、新たな商品開発やイベント等が可能となる機能の整備」としており、主な利用者層には「中国圏/四国圏からの家族連れや学生グループ、島民の休日利用」を設定している。

これらを踏まえ、宿泊ゾーン全体の整備水準について以下のように設定した。

表 2.8-6 キャンプゾーンの整備水準

配慮事項	整備水準
施設	<ul style="list-style-type: none">・既存施設を活かしながら、現在利用されていないスペースを有効活用した施設配置とする・夜間も安全に利用できるように、明るさや視認性を確保する
保全	<ul style="list-style-type: none">・城山公園との連続性を確保し、現況の自然環境や地形を保全する



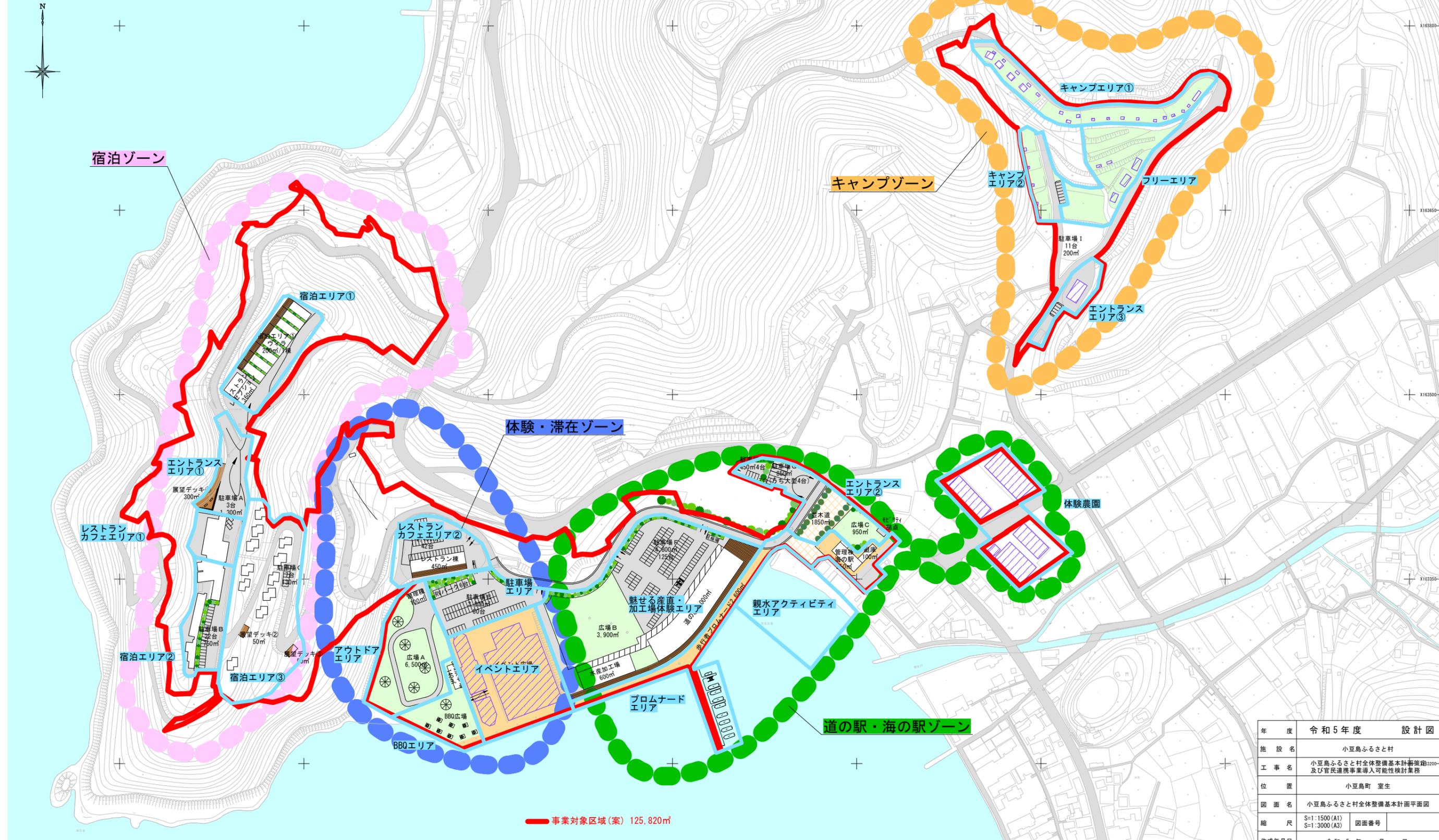
図 2.8-6 キャンプゾーン（フリーエリア）整備イメージ

2.9 全体整備基本計画図

小豆島ふるさと村全体に基本計画の内容を踏まえ、平面図を作成した。

小豆島ふるさと村全体整備基本計画平面図

S=1:1500 (A1)
S=1:3000 (A3)



— 事業対象区域(案) 125,820㎡

年度	令和5年度	設計図
施設名	小豆島ふるさと村	
工事名	小豆島ふるさと村全体整備基本計画第2000号及び官民連携事業導入可能性検討業務	
位置	小豆島町 室生	
図面名	小豆島ふるさと村全体整備基本計画平面図	
縮尺	S=1:1500 (A1) S=1:3000 (A3)	図面番号
作成年月日	令和5年 月 日	
会社名	オリエンタルコンサルタンツ・五星設計共同企業体	
事業者名	小豆島町	